

1. 子育て支援ニーズ調査分析結果(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)

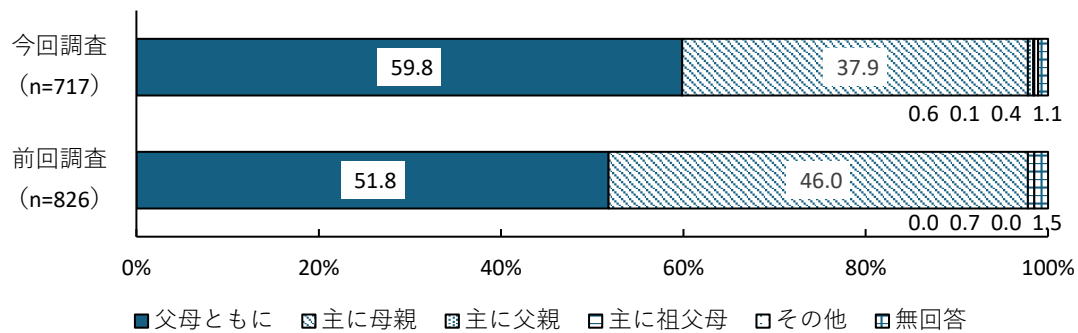
(1)子どもの育ちをめぐる環境について

- ① 子育てを主に行っている方は、未就学児童の保護者については、「父母ともに」が59.8%と最も多く、次いで「主に母親」が37.9%となっている。就学児童の保護者についても、「父母ともに」が55.3%と最も多く、次いで「主に母親」が41.5%となっている。前回調査と比較すると、いずれも「父母ともに」が上昇している。

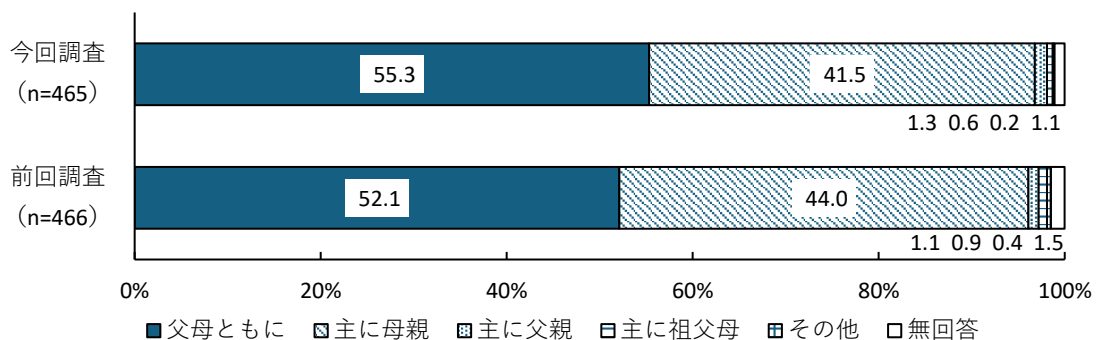
【未就学児童/問5・就学児童/問5】

図表 子育てを主に行っている方【単数回答】

【未就学児童の保護者】



【就学児童の保護者】

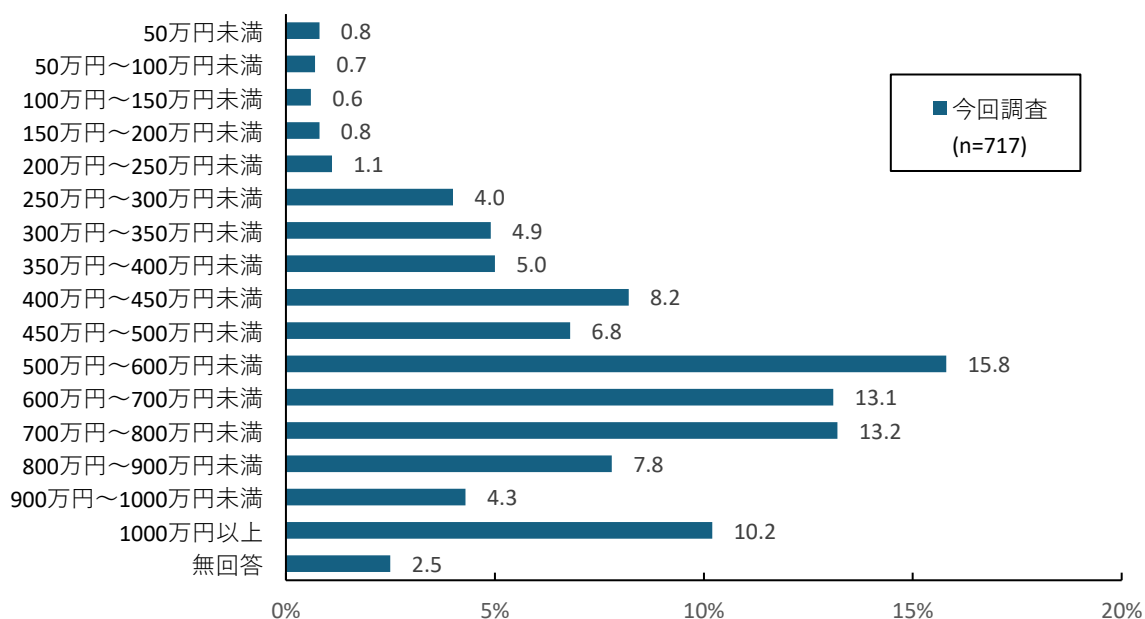


- ② 世帯収入について、未就学児童の保護者は「500～600 万円未満」が最も多く、就学児童の保護者は「700～800 万円未満」が最も多い。また、現在の家計状況について、未就学児童の保護者・就学児童の保護者ともに「ふつう」が約 6 割であり、次いで「苦しい」が約 25%となっている。

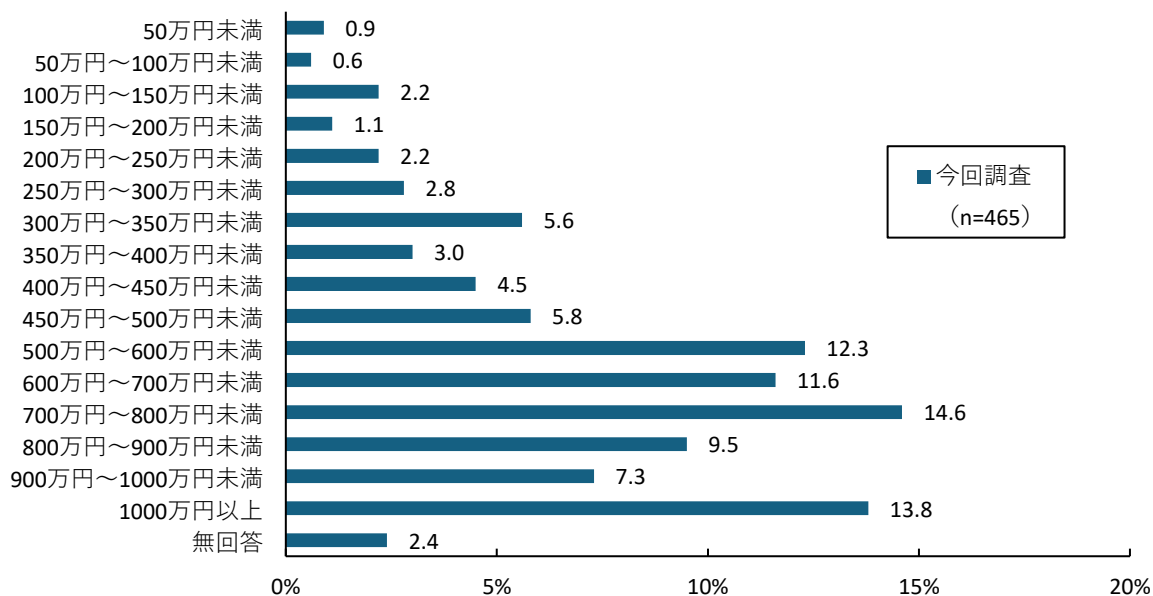
【未就学児童/問43,問44・就学児童/問21,問22】

図表 世帯収入【単数回答】

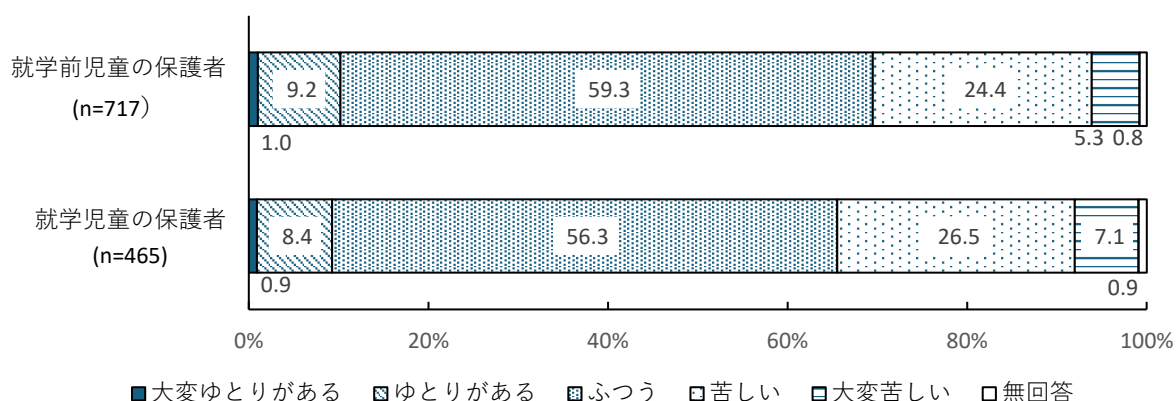
【未就学児童の保護者】



【就学児童の保護者】



図表 家計の状況(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)【単数回答】

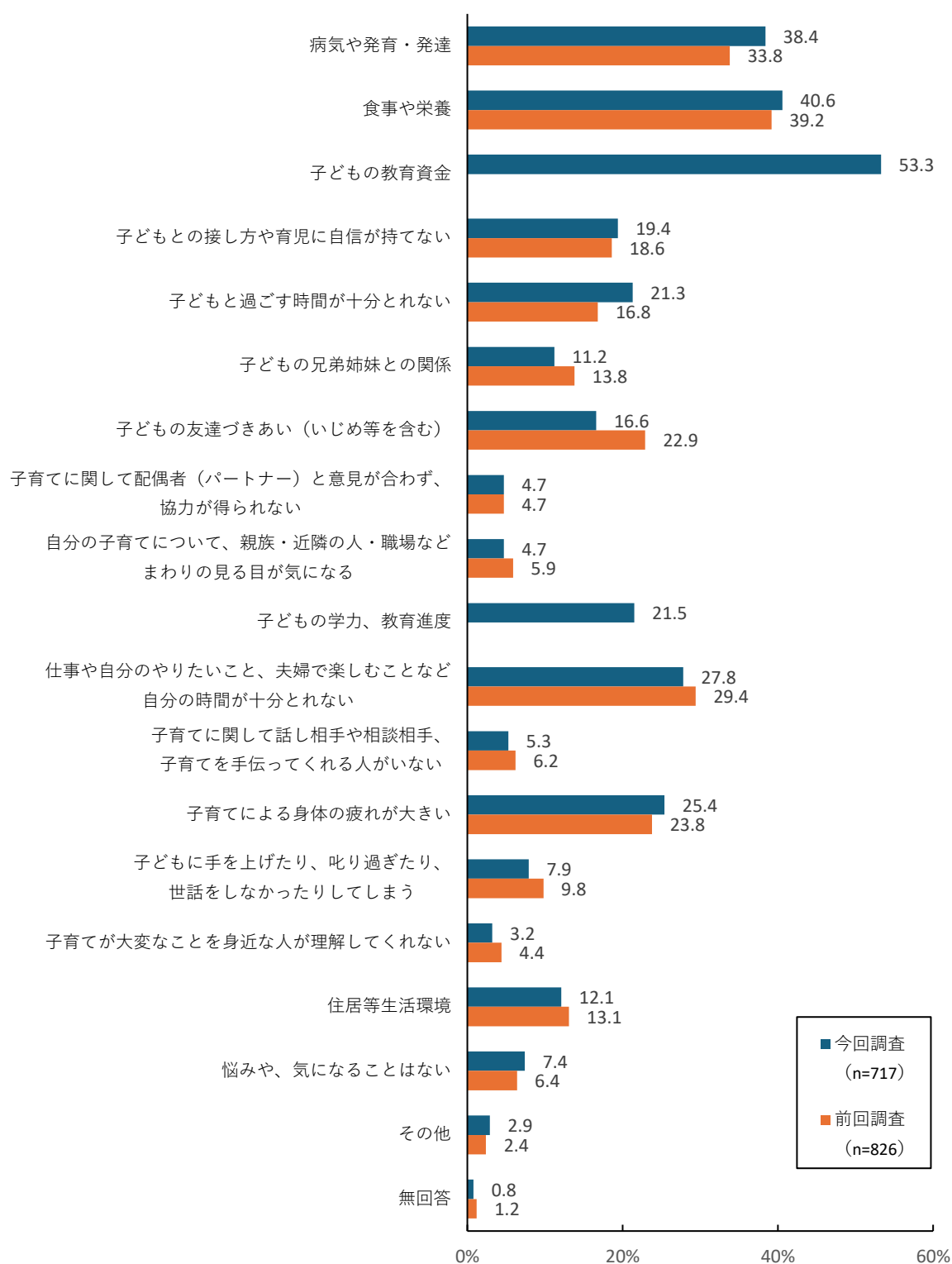


- ③ 子育てで困ったことや悩んでいることは、未就学児童の保護者については、「子どもの教育資金」が 53.3%と最も多く、次いで「食事や栄養」が 40.6%、「病気や発育・発達」が 38.4%となっている。前回調査と比較すると、上位3項目のほか、「子どもとの接し方や育児に自信が持てない」「子どもと過ごす時間が十分とれない」「子育てによる身体の疲れが大きい」が上昇し、「子どもの兄弟姉妹との関係」「子どもの友達づきあい(いじめ等を含む)」「仕事や自分のやりたいこと、夫婦で楽しむことなど自分の時間が十分とれない」などがやや低下している。【未就学児童/問48】

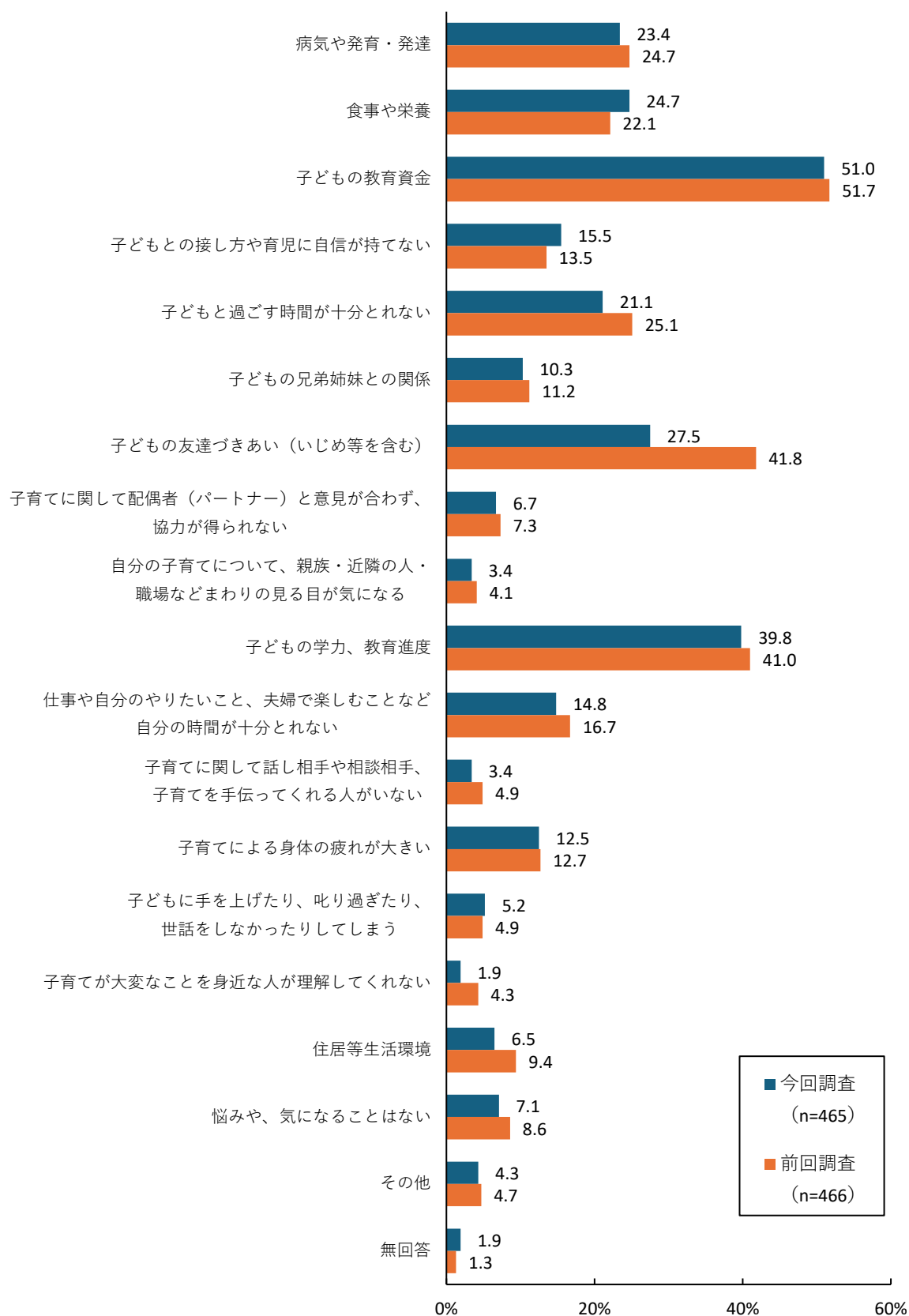
就学児童の保護者は、「子どもの教育資金」が 51.0%と最も多く、次いで「子どもの学力・教育進度」が 39.8%、「子どもの友達づきあい(いじめ等を含む)」が 27.5%となっている。前回調査と比較すると、「食事や栄養」「子どもとの接し方や育児に自信が持てない」などがやや上昇し、「子どもと過ごす時間が十分にとれない」「子どもの友達づきあい(いじめ等を含む)」などが低下している。【就学児童/問33】

図表 子育てに関する悩み・気になること【複数回答】

【未就学児童の保護者】



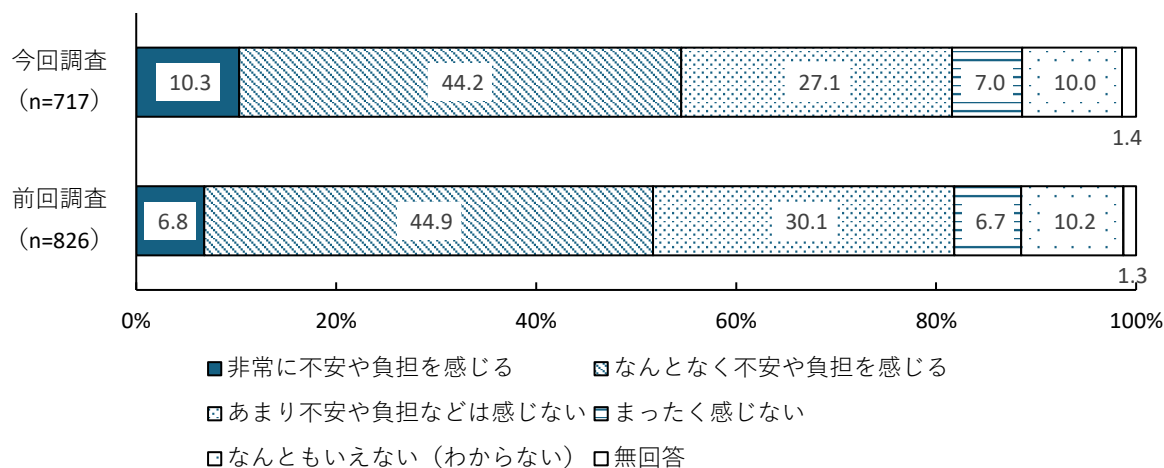
【就学児童の保護者】



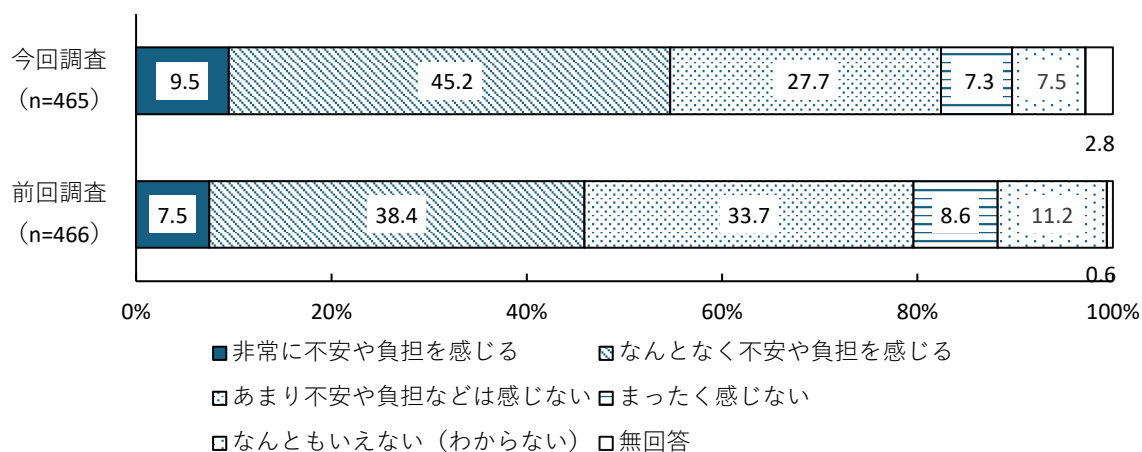
- ④ 子育てに関する不安感や負担感がある方の割合は、「非常に不安や負担を感じる」、「なんとなく不安や負担を感じる」の合計が未就学児童の保護者で 54.5%、就学児童の保護者で 54.7%となっており、いずれも前回調査から上昇している。【未就学児童/問47・就学児童/問32】

図表 子育てに関する不安感や負担感【単数回答】

【未就学児童の保護者】



【就学児童の保護者】

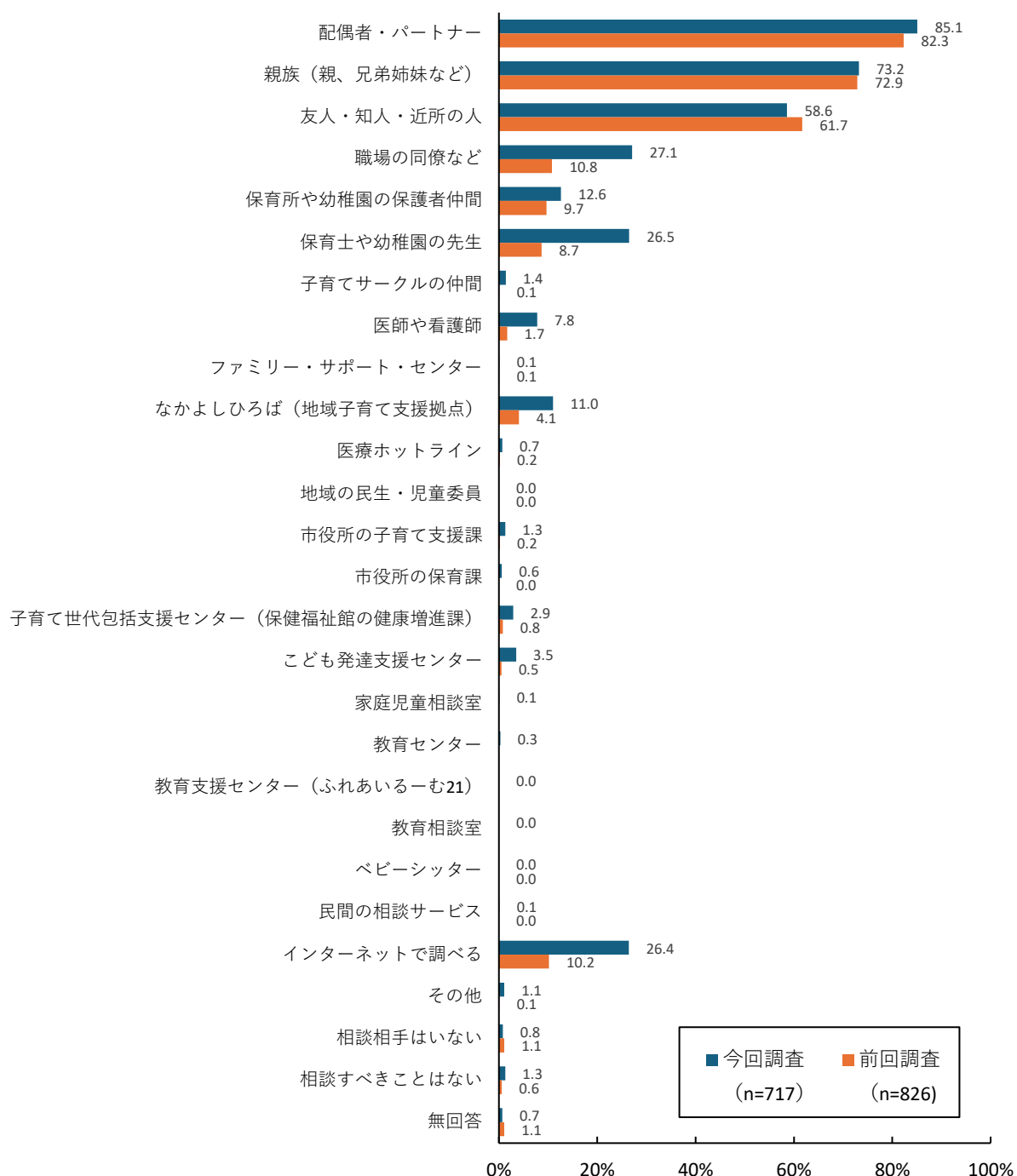


- ⑤ 子育てに関する悩みや不安がある場合の相談相手について、未就学児童の保護者・就学児童の保護者ともに「配偶者・パートナー」が最も多く、次いで「親族(親・兄弟姉妹など)」、「友人・知人・近所の人」となっているが、これら上位3項目の回答割合は、前回調査から大きな変化はない。【未就学児童/問49・就学児童/問34】

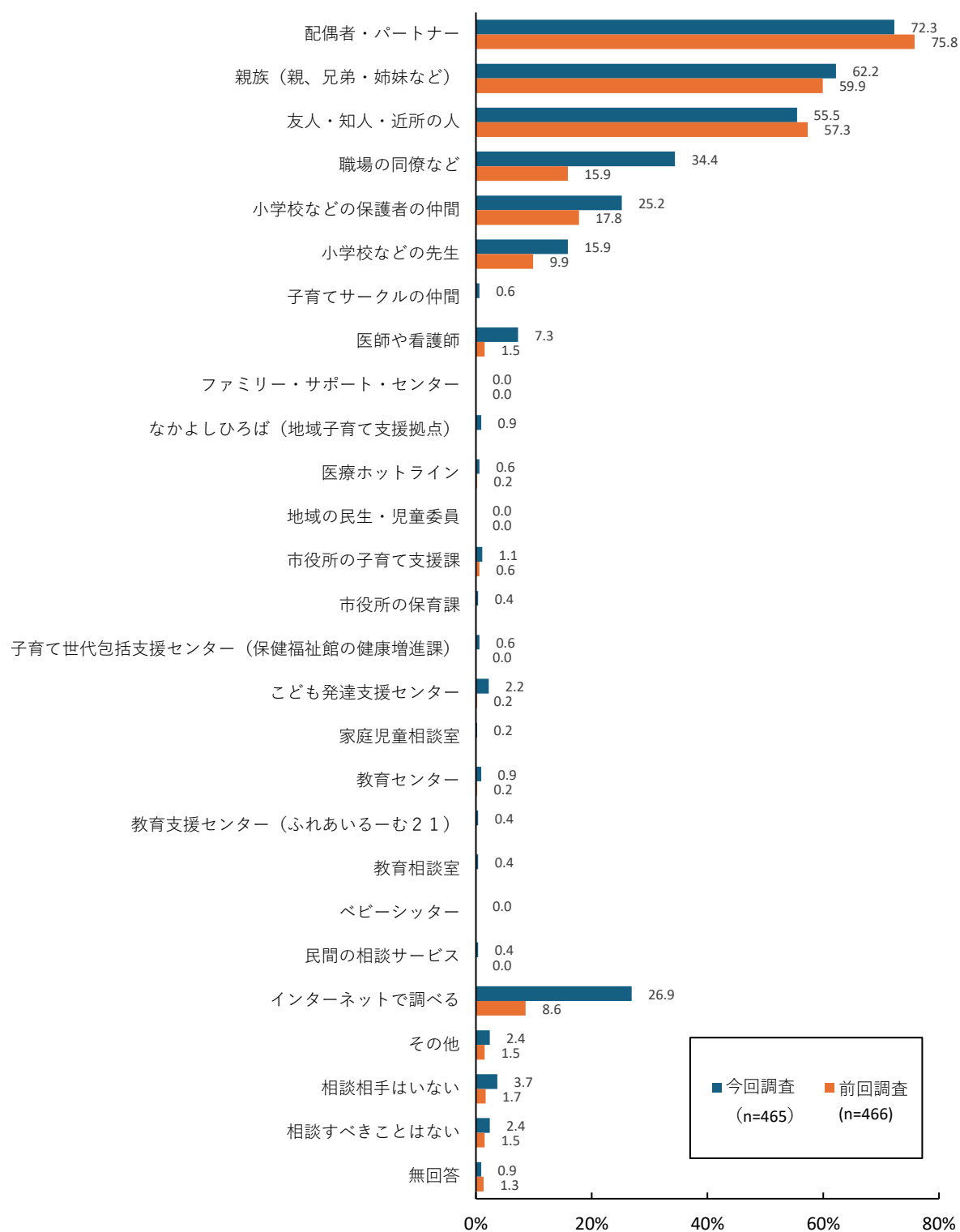
なお、その他の項目では、「職場の同僚など」や「保育士や幼稚園の先生」、「インターネットで調べる」の回答率が前回調査よりも上昇している。

図表 子育てに関する悩みや不安がある場合の相談相手【複数回答】

【未就学児童の保護者】



【就学児童の保護者】



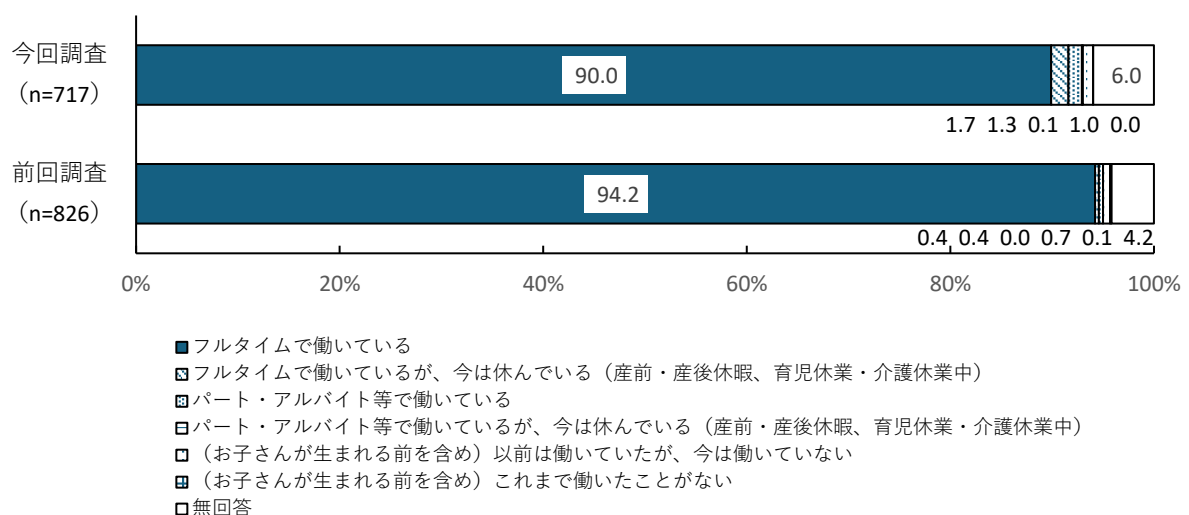
(2)保護者の就労状況について

- ① 保護者の現在の就労状況について、未就学児童の父親は前回調査より「フルタイムで働いている」の割合が 4.2%減少しているが、これは育児休業の取得者及び無回答の増加によるものである。また、就学児童の父親も「フルタイムで働いている」の割合が 3.2%減少しているが、理由は同様である。【未就学児童/問7・就学児童/問 7】

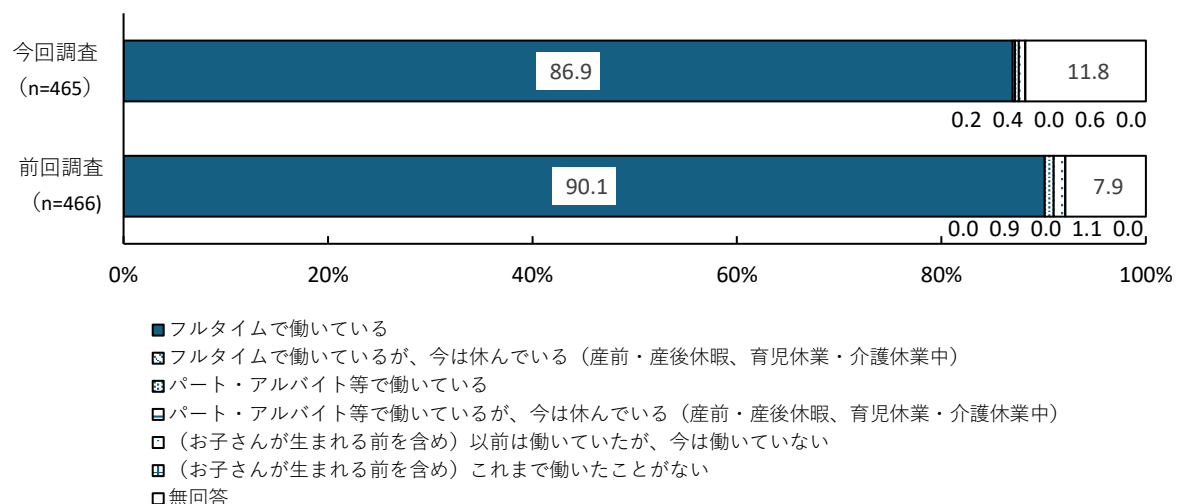
一方、母親は特に未就学児童において「フルタイムで働いている」の割合が 7.7%、「フルタイムで働いているが、今は休んでいる」の割合が 6.1%上昇し、「以前は働いていたが、今は働いていない」の割合が大きく減少した。【未就学児童/問7・就学児童/問 7】

図表 父親の就労状況【単数回答】

【未就学児童の保護者】

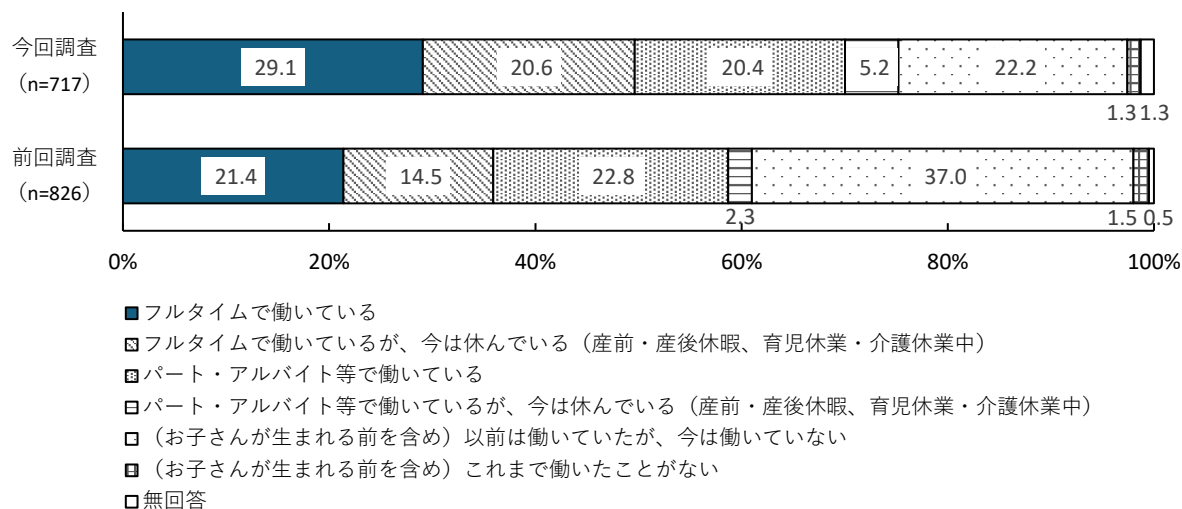


【就学児童の保護者】

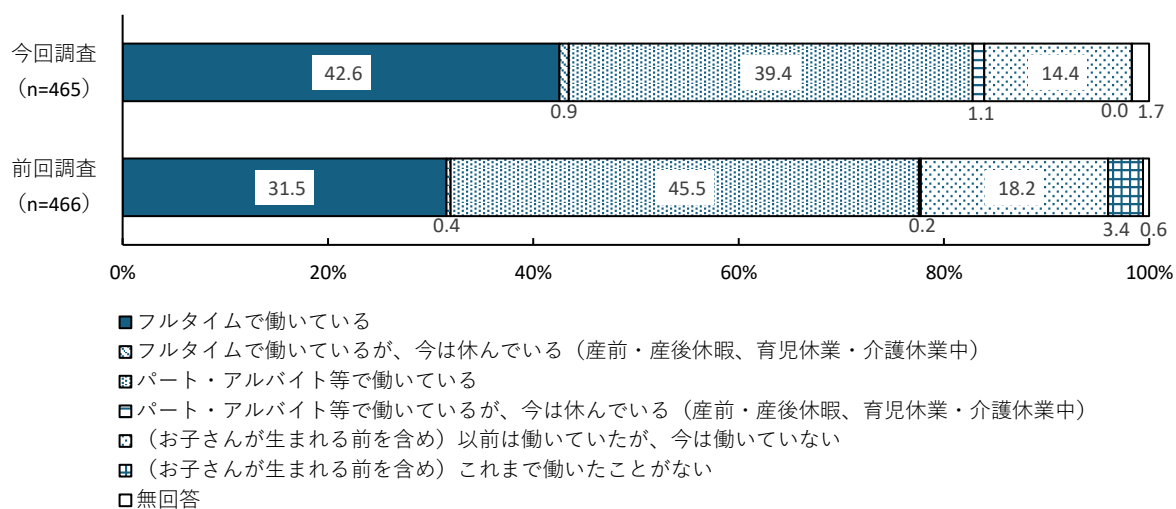


図表 母親の就労状況【単数回答】

【未就学児童の保護者】



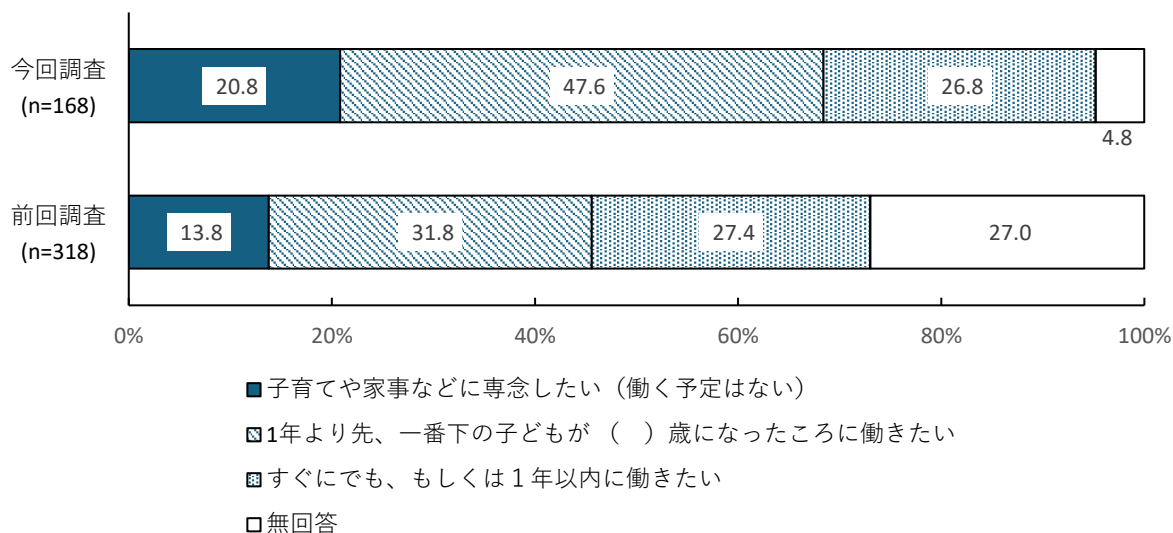
【就学児童の保護者】



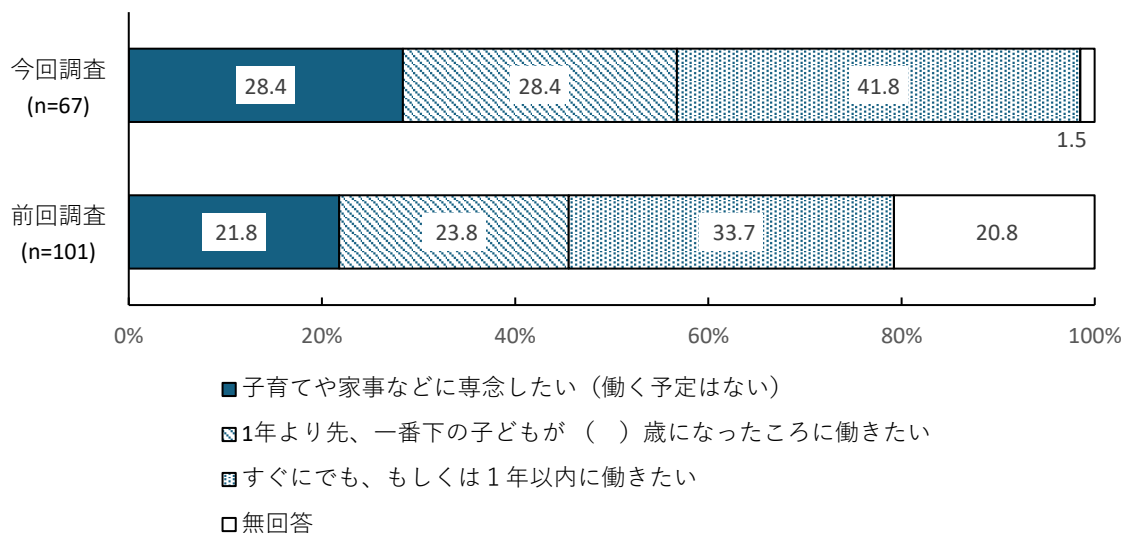
- ② 就労希望について、母親については、就労率の増加も関係していると考えられるが、未就学児童及び就学児童のいずれも「子育てや家事などに専念したい（働く予定はない）」と「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに働きたい」が増加している。【未就学児童/問9・就学児童/問9】

図表 母親の就労希望【単数回答】

【未就学児童の保護者】



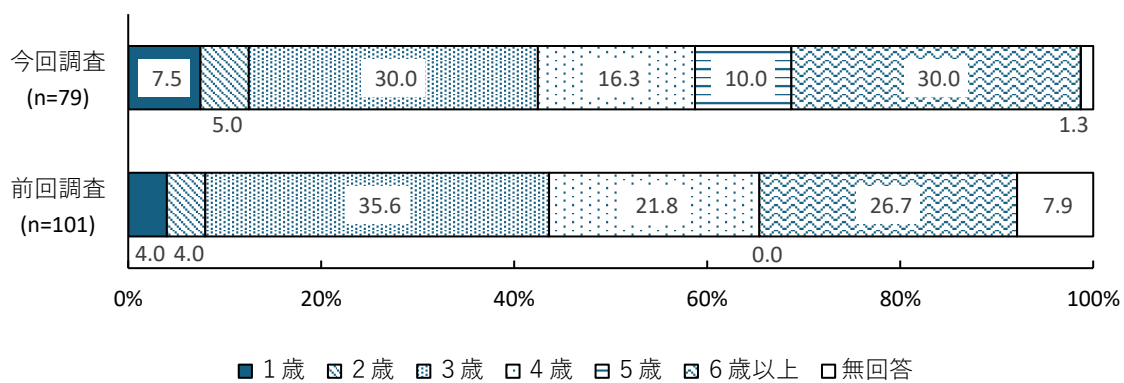
【就学児童の保護者】



- ③ 未就学児童の母親が就労を希望する子どもの年齢については、「3歳」「6歳以上」が多いことから、就園や小学校就学のタイミングで就労を希望することがうかがえる。

【未就学児童/問9】

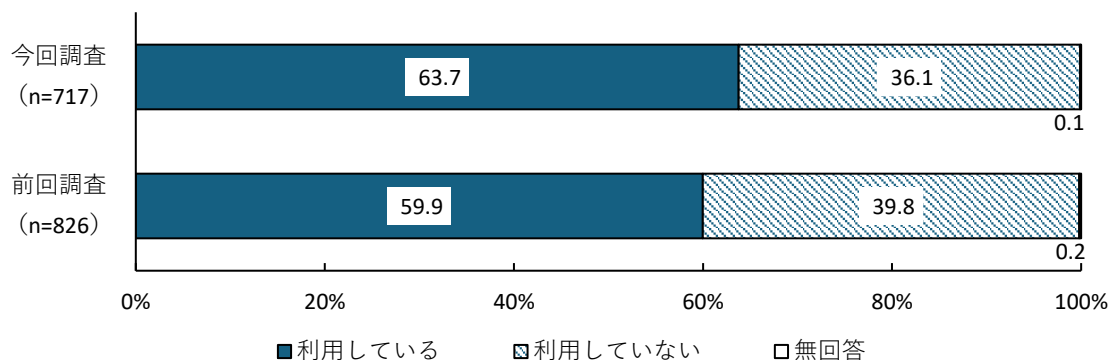
図表 就労を希望する子どもの年齢(未就学児童の母親)【単数回答】



(3) 平日の定期的な教育・保育サービスの利用状況について

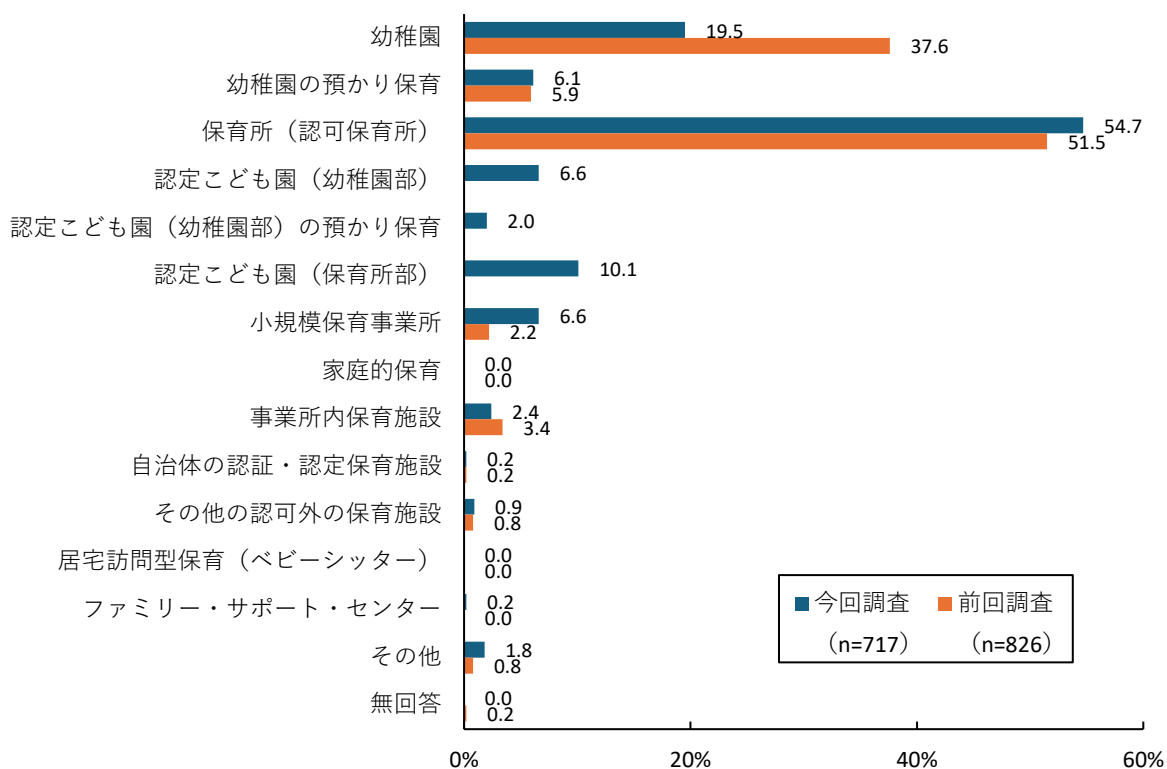
- ① 定期的な教育・保育サービスの利用状況について、「利用している」の割合が前回調査時から 3.8%増加した。【未就学児童/問10】

図表 定期的な教育・保育サービスの利用の有無(未就学児童の保護者)【単数回答】



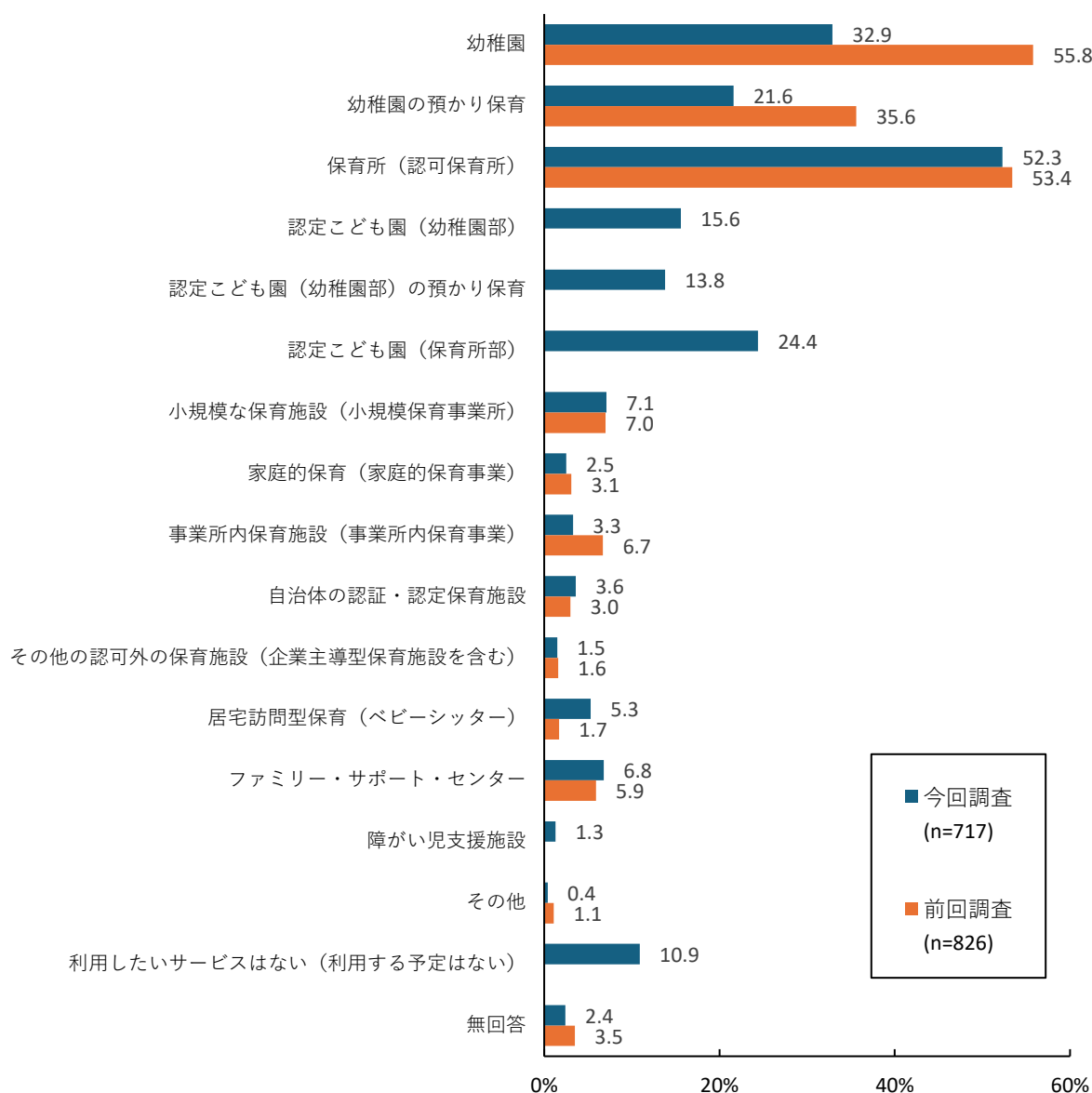
- ②利用している事業は「保育所(認可保育所)」が 54.7%で最も多く、次いで「幼稚園」が 19.5%、「認定こども園(保育所部)」が 10.1%となっている。前回調査時と比較すると、「保育所(認可保育所)」や「小規模保育事業所」が上昇し、「幼稚園」が低下している。【未就学児童/問11】

図表 利用している定期的な教育・保育サービス(未就学児童の保護者)【複数回答】



- ③ 利用の有無にかかわらず、今後利用したいと考える教育・保育サービスは、「保育所（認可保育所）」が最も多く、次いで「幼稚園」、「認定こども園（保育所部）」となっている。前回調査時では「幼稚園」が最も多く、「認可保育所」と入れ替わっている。また、「認定こども園（保育所部）」と「認定こども園（幼稚園部）」を合わせると、今回の「幼稚園」の利用希望を上回る。【未就学児童/問15】

図表 現在の利用の有無に関わらず、定期的に利用したい教育・保育サービス
(未就学児童の保護者)【複数回答】

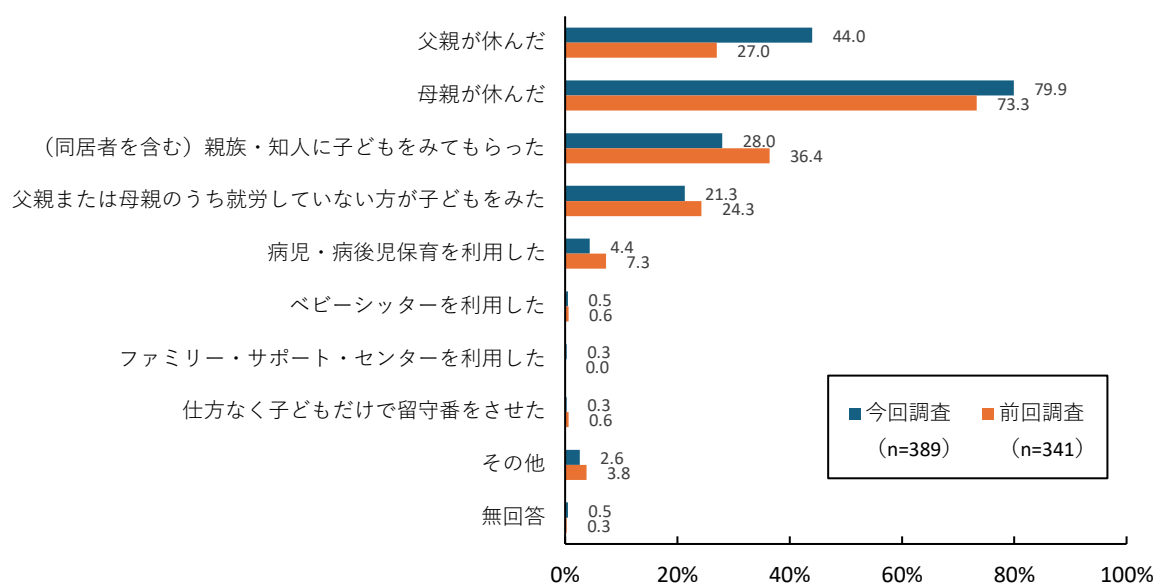


(4)病気やケガの際の対応について

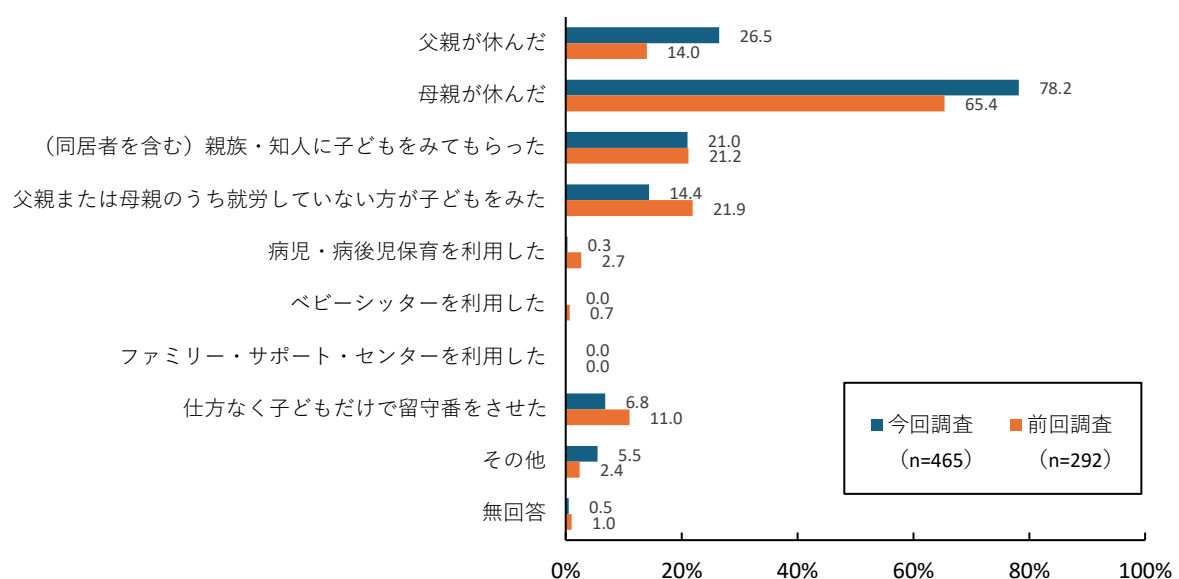
- ① 子どもが病気やケガで教育・保育サービスが利用できなかった場合の対応について、未就学児童の保護者・就学児童の保護者ともに「母親が休んだ」が約 8 割と最も多く、次いで未就学児童は前回調査時の「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」から「父親が休んだ」に順位が変わった。就学児童においても「父親が休んだ」の割合が高まっている。【未就学児童/問27・就学児童/問11】

図表 普段利用している教育・保育サービスが利用できなかった場合の対応【複数回答】

【未就学児童の保護者】



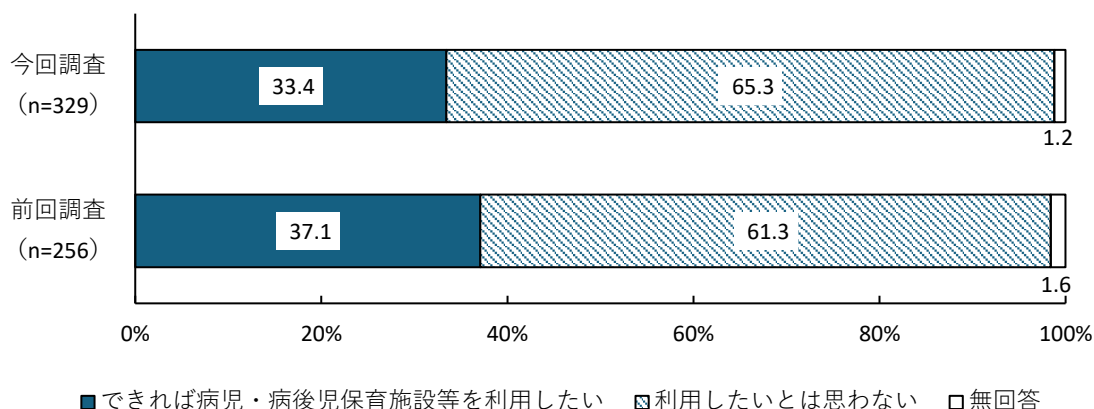
【就学児童の保護者】



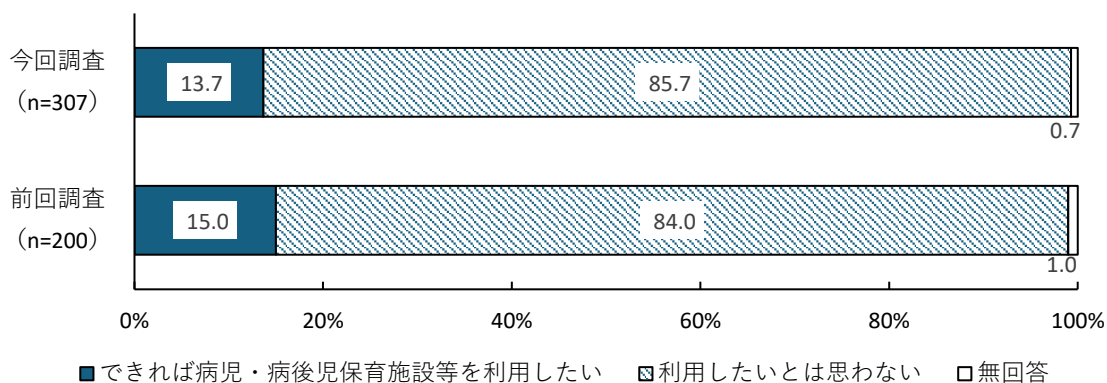
- ② 病児・病後児のための保育施設に対する利用意向について、「利用したいとは思わない」とする割合は、未就学児童の保護者で 65.3%、就学児童の保護者は 85.7%となっている。教育・保育サービスが利用できなかった割合が増加している一方、病児・病後児のための利用意向率が前回から低下しているが、父母が休んで対応した人が多くなったことも要因の1つであると推察される。【未就学児童/問28・就学児童/問12】

図表 病児・病後児のための保育施設等の利用意向【単数回答】

【未就学児童の保護者】

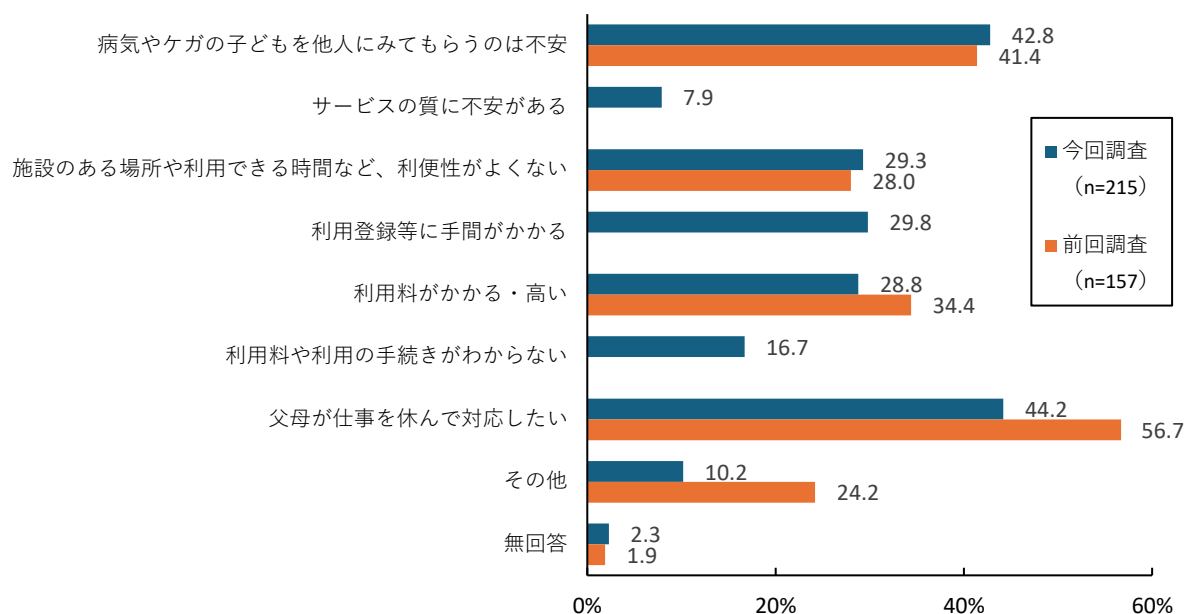


【就学児童の保護者】

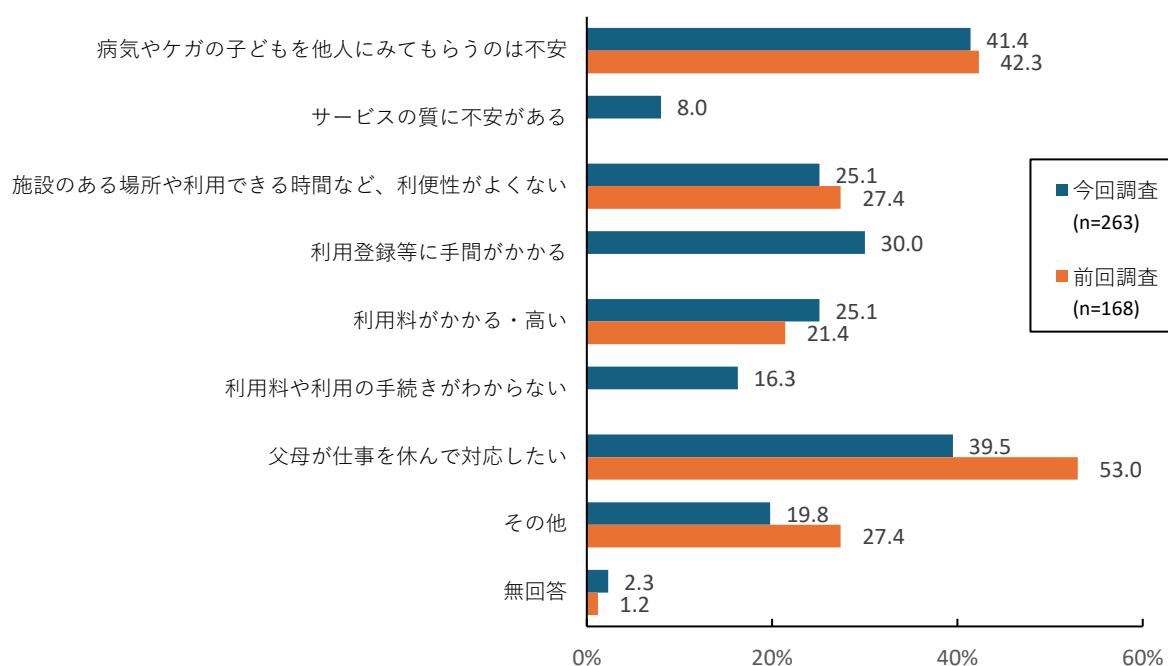


図表 病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思わない理由【複数回答】

【未就学児童の保護者】



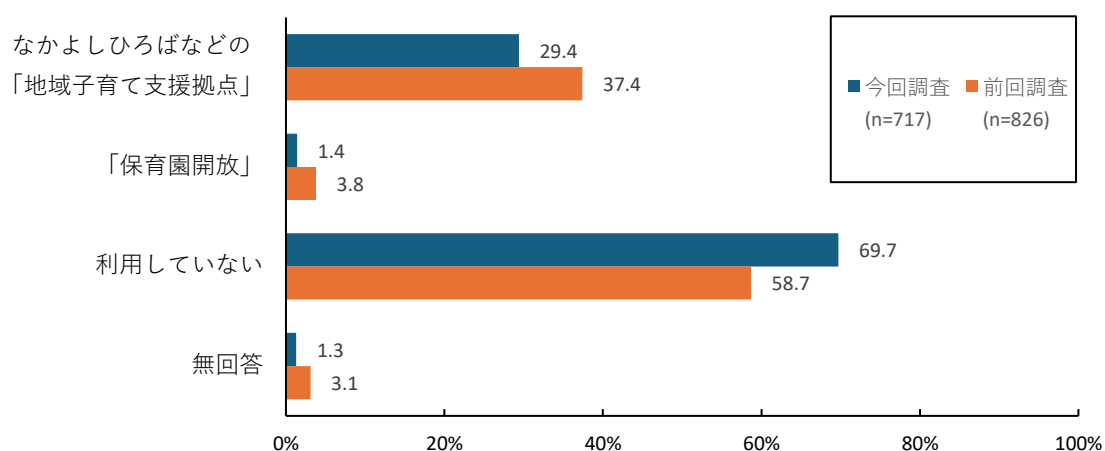
【就学児童の保護者】



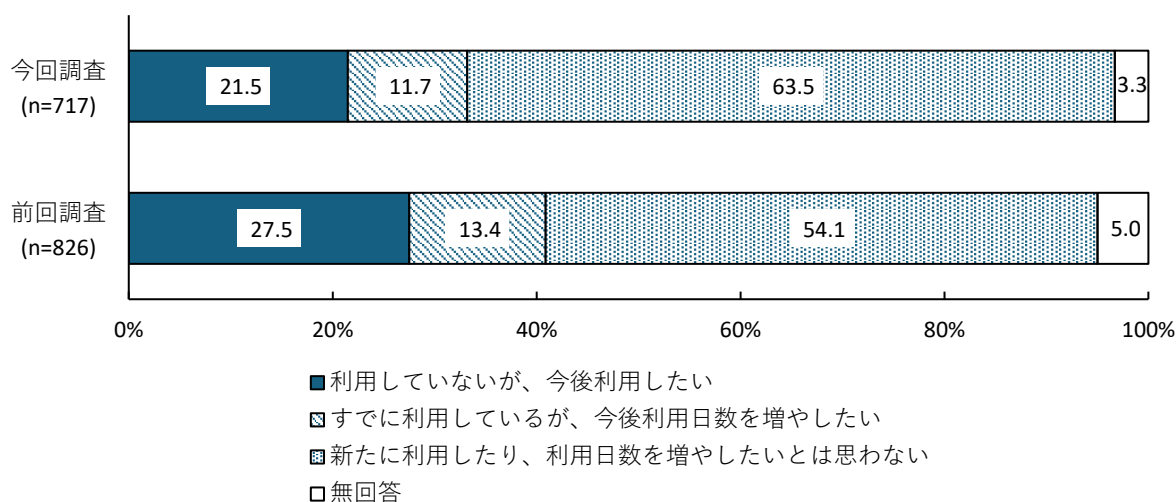
(5)地域の子育て支援事業の利用状況について

- ① 地域子育て支援拠点事業に利用状況について、「地域子育て支援拠点」を利用している割合が減少した。定期的な教育・保育サービスの利用が高まっていることから、地域子育て支援拠点事業の利用が減少したものと考えられるが、コロナ禍収束後は利用者数が増加傾向にあることのほか、「利用している方」と「利用していない方のうち今後利用を希望する方」を合計した割合は約44%と、依然として高い利用意向率となっている。【未就学児童/問23・就学児童/問24】

図表 地域子育て支援事業の利用状況(未就学児童の保護者)【複数回答】



図表 地域子育て支援事業の利用意向(未就学児童の保護者)【単数回答】

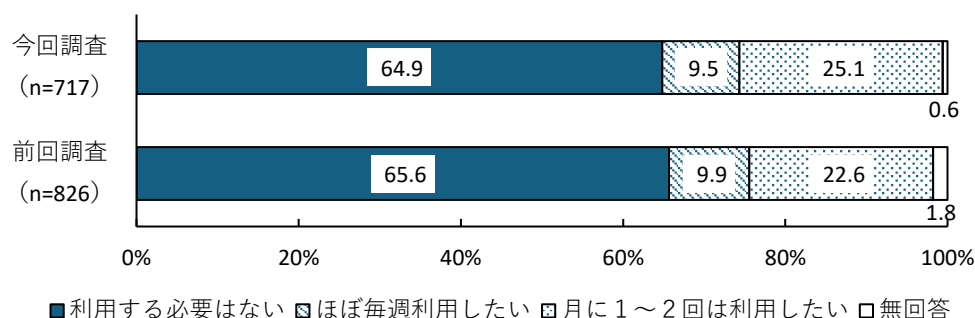


(6)土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育サービスの利用希望について

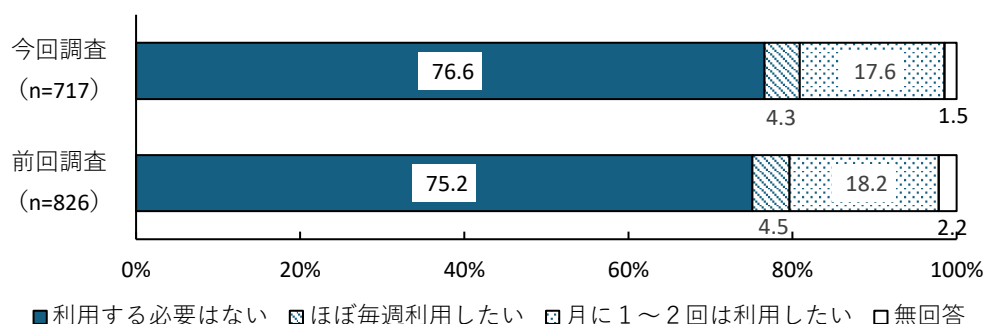
- ① 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育サービスの利用希望について、前回調査時とほぼ同様の傾向となっている。【未就学児童/問19】
- ② 幼稚園利用者の、長期休暇中の教育・保育サービスの利用希望は 6 割程度となっており、「利用する必要はない」とする人よりも多い。【未就学児童/問21】

図表 定期的な教育・保育サービスの利用希望(未就学児童の保護者)【単数回答】

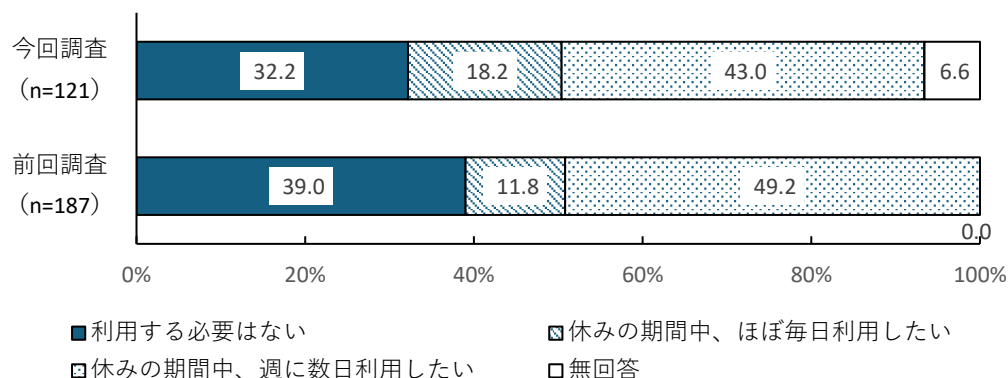
【土曜日】



【日曜日・祝日】



【夏休み・冬休みなど長期の休暇期間(幼稚園を利用されている方)】

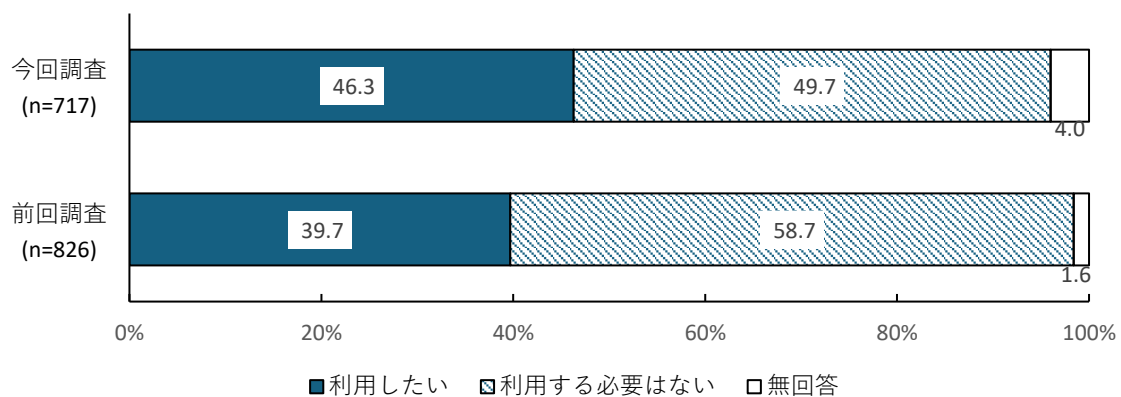


(7)不定期の教育・保育サービスや宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

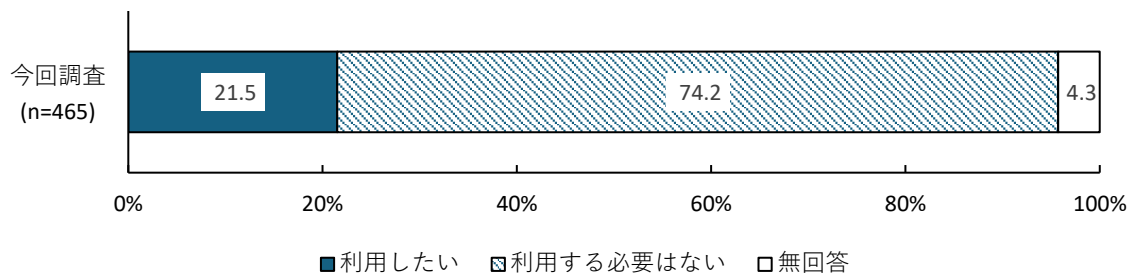
- ① 私用、親の通院、不定期の就労などの目的で不定期的に利用している事業について、未就学児童では「利用したい」が46.3%であるのに対し、就学児童は21.5%となっている。いずれも、「私用(買物、習い事、リフレッシュ等)」、「冠婚葬祭、学校行事、通院等」が主な理由となっている。【未就学児童/問32・就学児童/問16】

図表 不定期の教育・保育サービスの利用意向【単数回答】

【未就学児童の保護者】

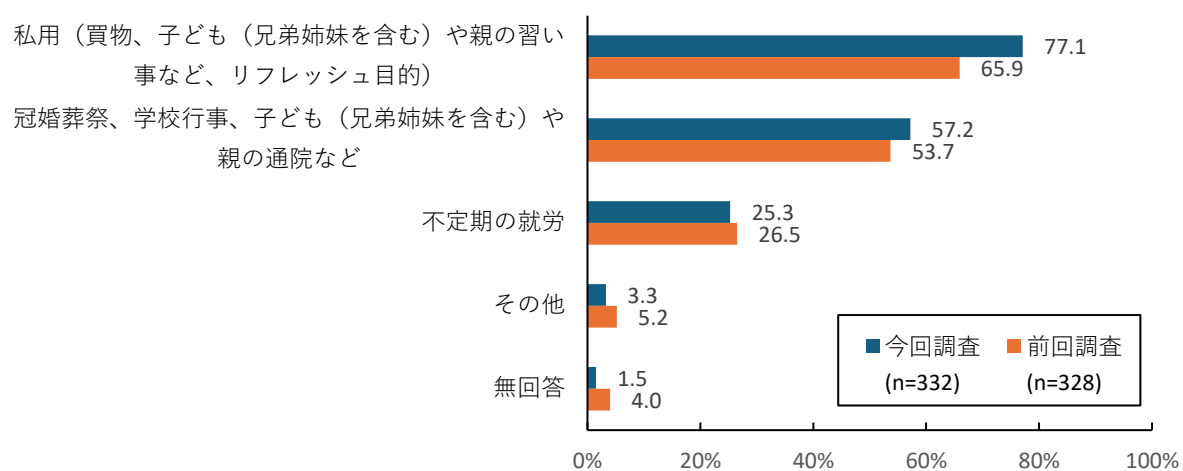


【就学児童の保護者】

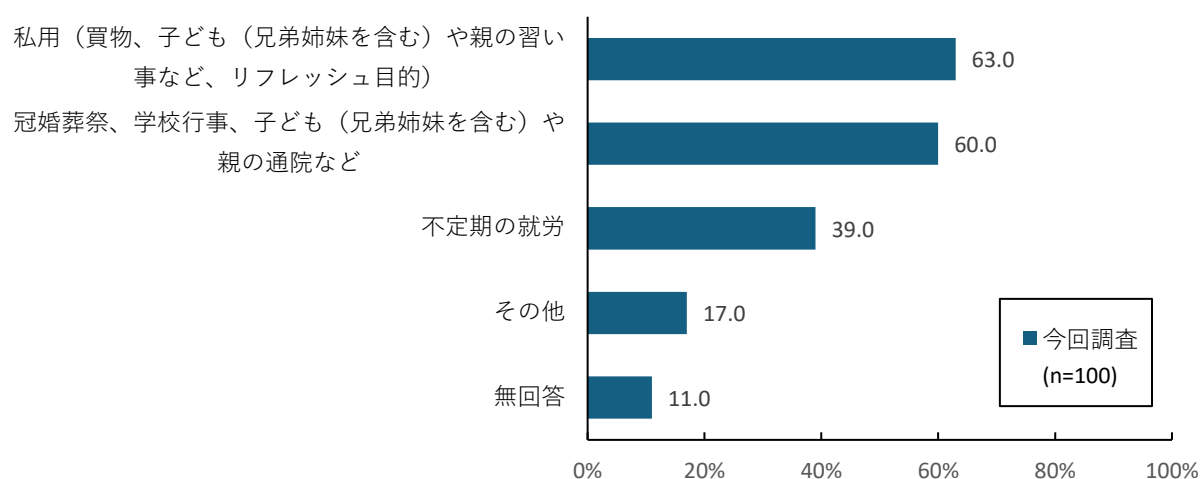


図表 不定期の教育・保育サービスの利用目的【複数回答】

【未就学児童の保護者】

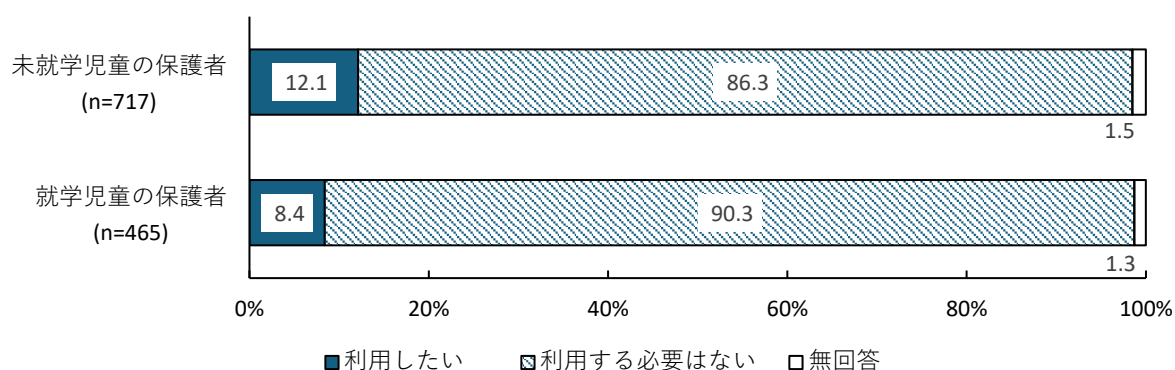


【就学児童の保護者】

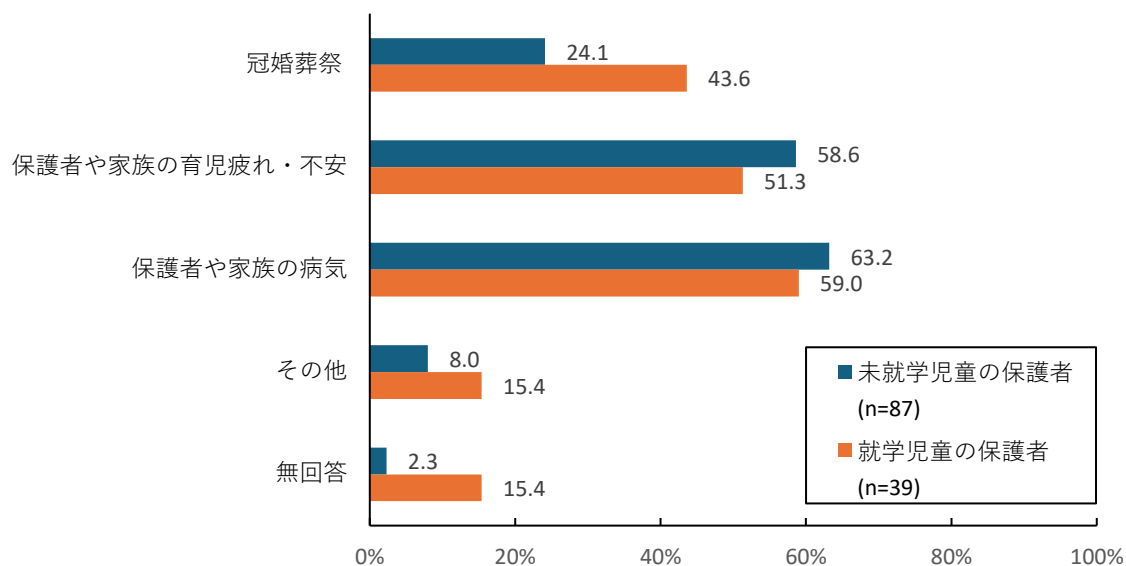


- ② 保護者の用事により、泊りがけで預ける必要性について、未就学児童の保護者・就学児童の保護者ともに「利用する必要はない」が約 9 割となっている。利用目的について、いずれも「保護者や家族の病気」が最も多い。【未就学児童/問33・就学児童/問17】

図表 宿泊を伴う不規則の教育・保育サービスの利用意向
(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)【単数回答】



図表 宿泊を伴う不規則の教育・保育サービスの利用目的
(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)【複数回答】

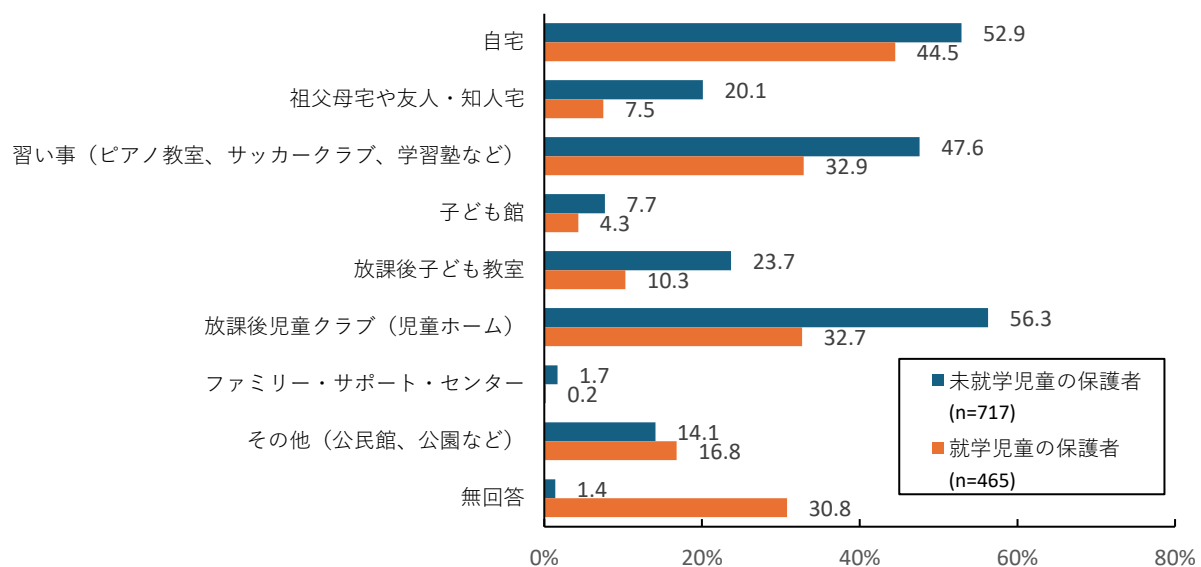


(8)放課後の過ごし方について

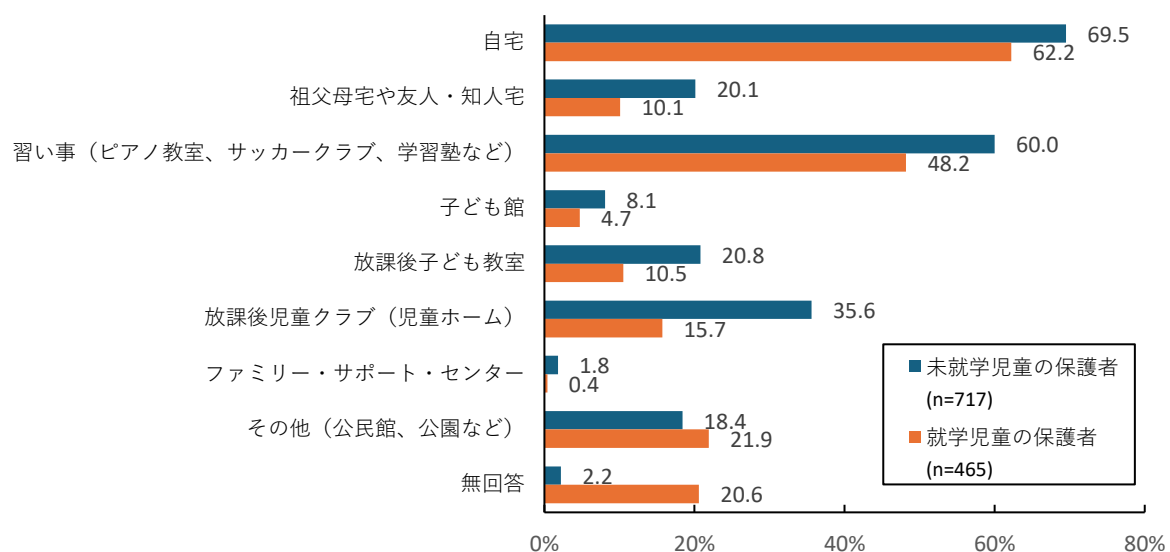
- ① 小学生低学年の放課後の希望の過ごし方について、未就学児童の保護者は、「放課後児童クラブ(児童ホーム)」が最も多く、次いで「自宅」、「習い事」となっており、就学児童の保護者は、「自宅」が最も多く、次いで、「習い事」、「放課後児童クラブ」となっている。小学生高学年の放課後の希望の過ごし方については、低学年よりも「放課後児童クラブ」の割合が低くなり、「習い事」の割合が高くなっている。【未就学児童/問34, 35・就学児童/問18, 19】

図表 放課後の過ごし方(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)【複数回答】

【小学校低学年】



【小学校高学年】

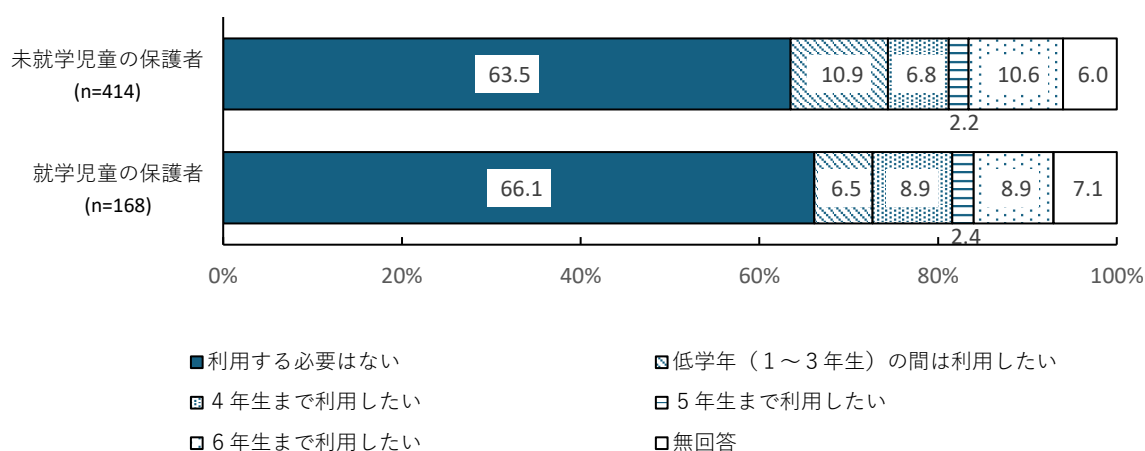


② 土曜日などの放課後児童クラブの利用希望については、就学児童の保護者で、土曜日が26.8%、日曜日が8.4%、祝日が13.1%となっている。【未就学児童/問36(2)～(4)・就学児童/問20(2)～(4)】

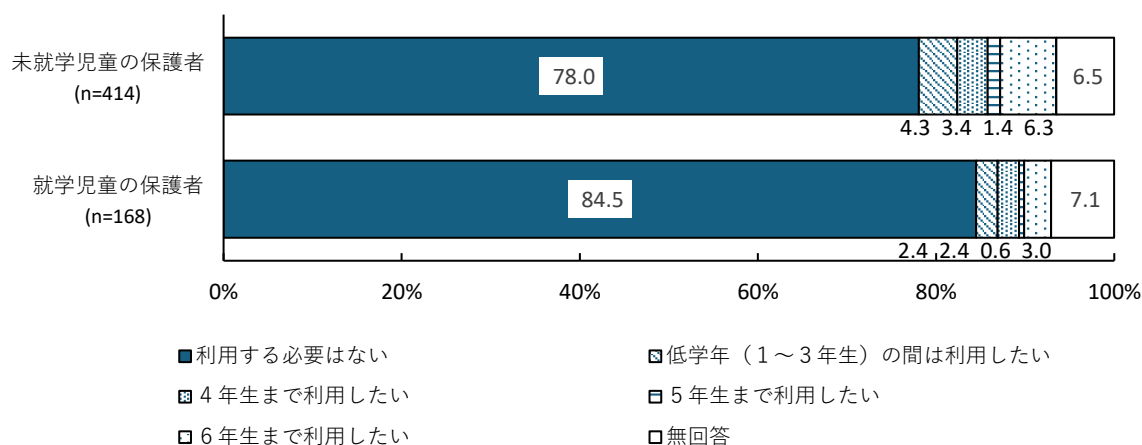
③ 冬休み・夏休み等の長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望は、就学児童の保護者で約9割が利用を希望している。【未就学児童/問36(5)・就学児童/問20(5)】

図表 放課後児童クラブの利用希望
(未就学児童の保護者・就学児童の保護者)【単数回答】

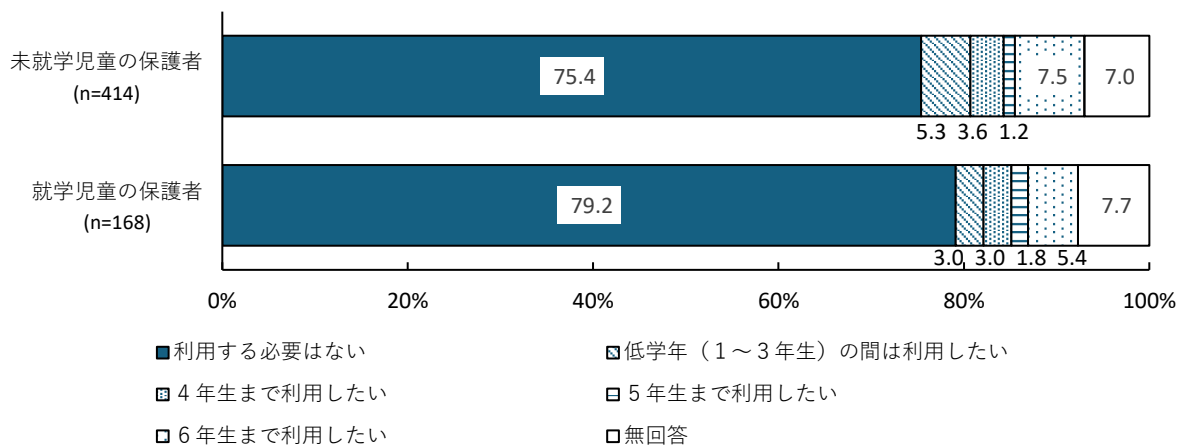
【土曜日】



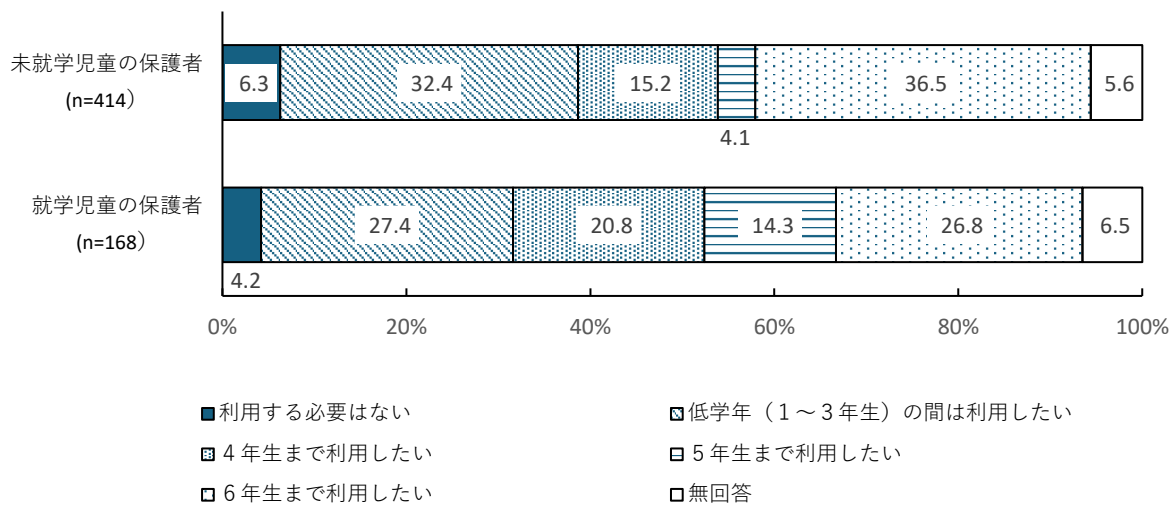
【日曜日】



【祝日】



【冬休み・夏休み等の長期休暇中】



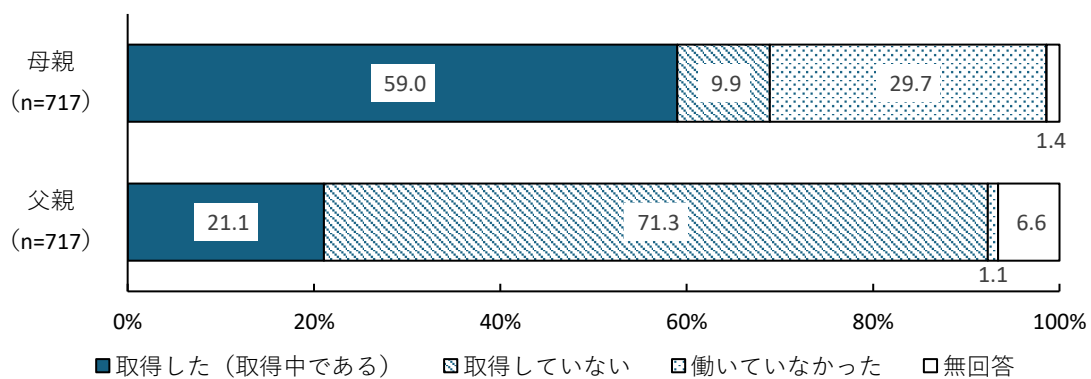
(9)育児休業について

- ① 子どもが生まれた時の育児休業の取得状況について、母親は「取得した(取得中である)」が 59.0%と最も多く、父親は「取得していない」が 71.3%と最も多い。

【未就学児童/問37】

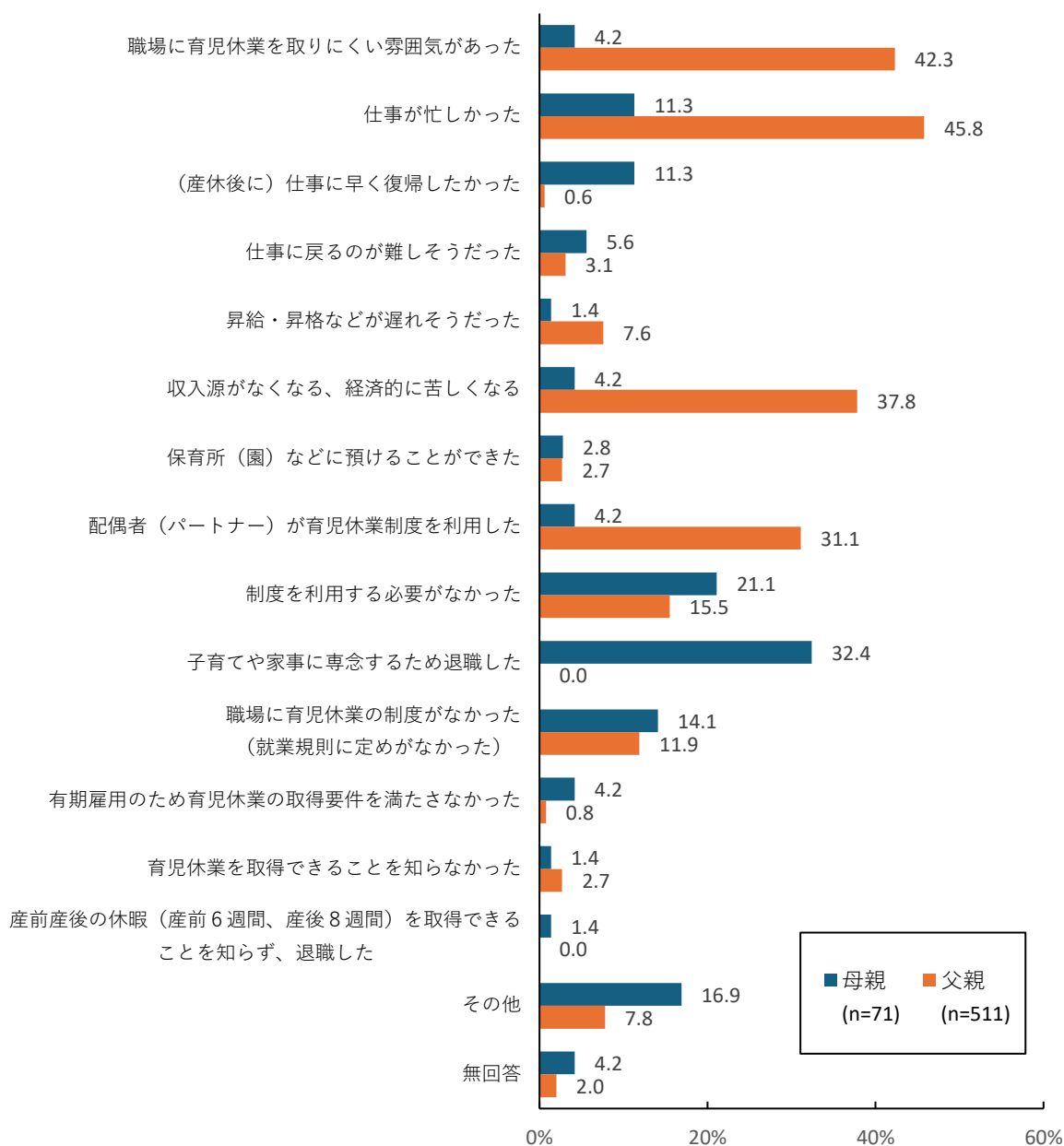
同時に、職場への復帰状況について、父親における「現在も育児休業中である」の割合が大きく増加している(P9の未就学児童の父親の就労状況参照)。

図表 育児休業の取得状況(未就学児童の保護者)【単数回答】



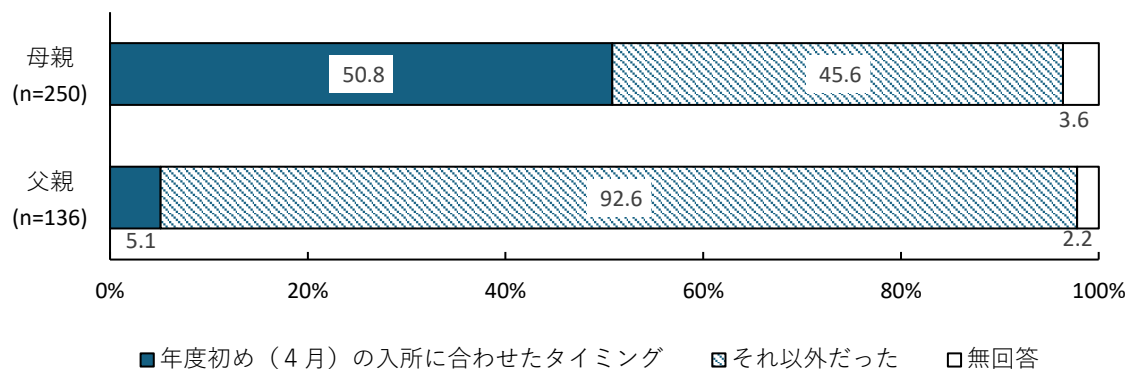
② 育児休業を取得していない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」、父親は「仕事が忙しかった」が最も多い。次いで、父親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」とする回答が多かった。【未就学児童/問37】

図表 育児休業を取得していない理由（未就学児童の保護者）【複数回答】



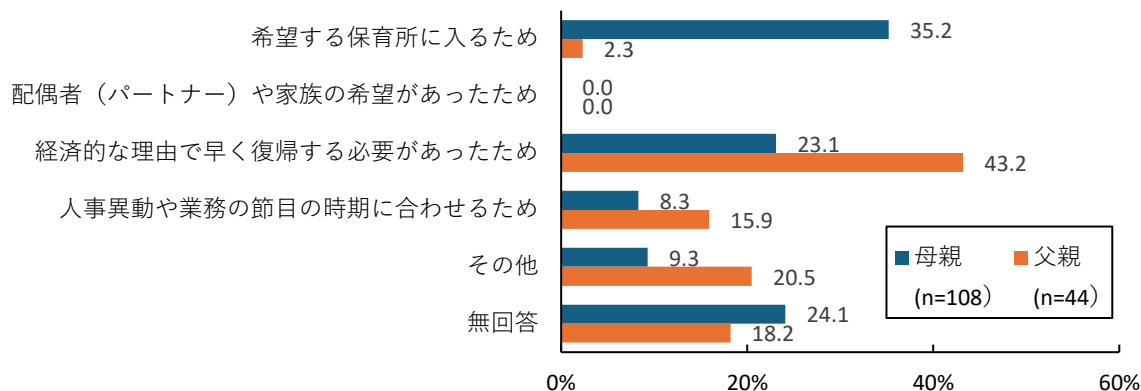
- ③ 職場復帰したタイミングについて、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が最も多い。また、希望の時期に職場復帰しなかった理由について、母親は「希望する保育所に入るため」、父親は「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が最も多い。【未就学児童/問39, 問40, 問41】

図表 職場復帰したタイミング(未就学児童の保護者)【単数回答】

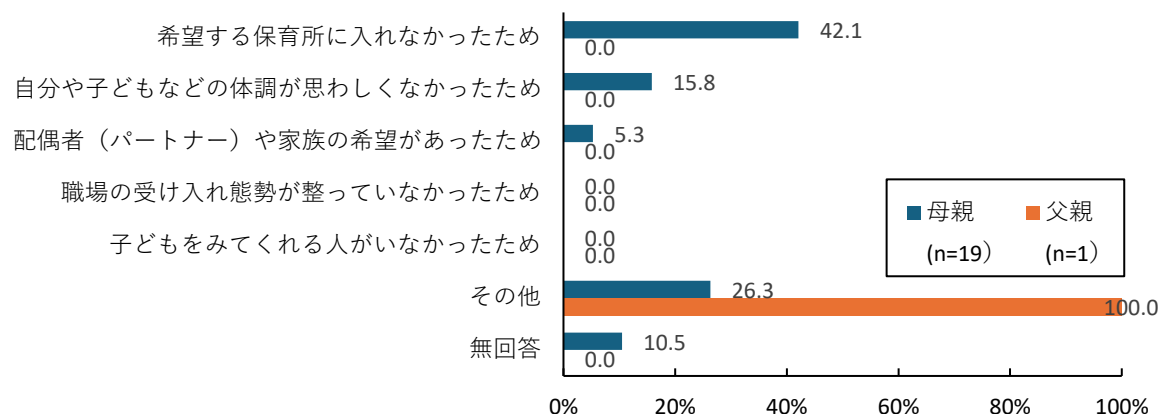


図表 希望する時期に職場復帰しなかった理由(未就学児童の保護者)【複数回答】

【希望より早く復帰した方】



【希望より遅く復帰した方】

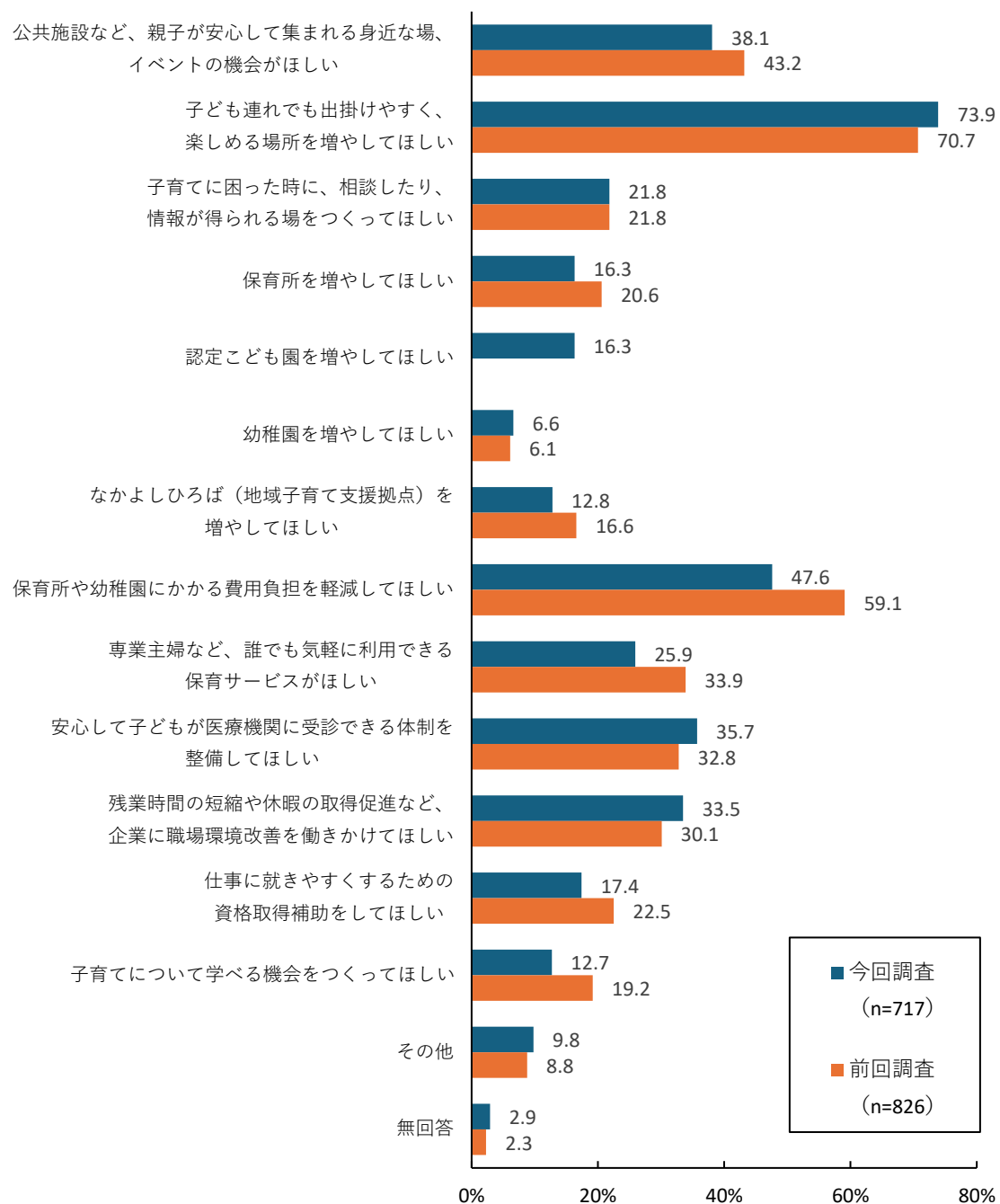


(10)子育て全般・こどもの権利について

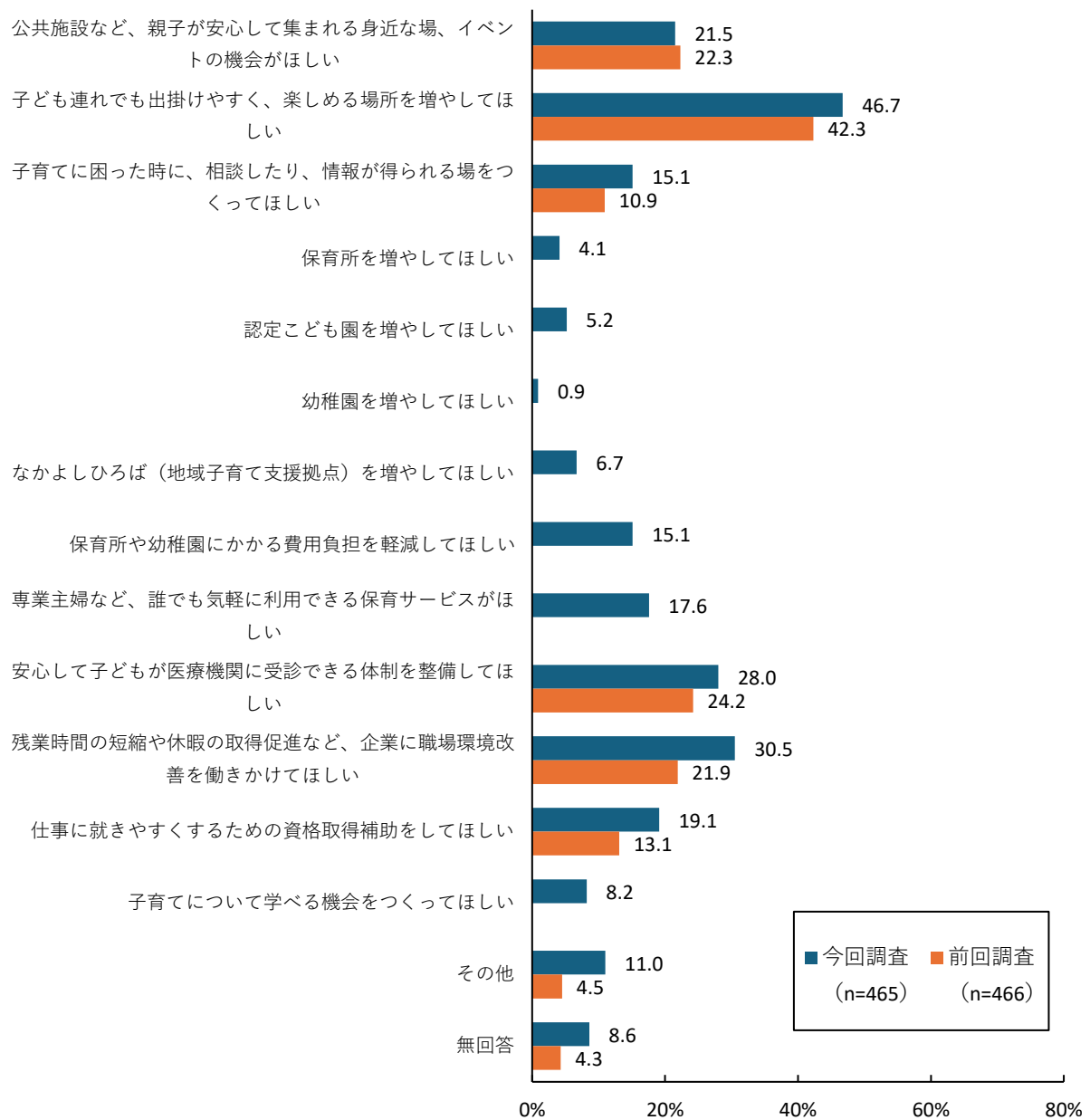
- ① 子育て支援の充実を図ってほしいと期待することについて、未就学児童・就学児童ともに「子ども連れでも出掛けやすく、楽しめる場所を増やしてほしい」が最も多くなっている。【未就学児童/問53・就学児童/問37】

図表 子育て支援の充実を図ってほしいと期待すること【複数回答】

【未就学児童の保護者】



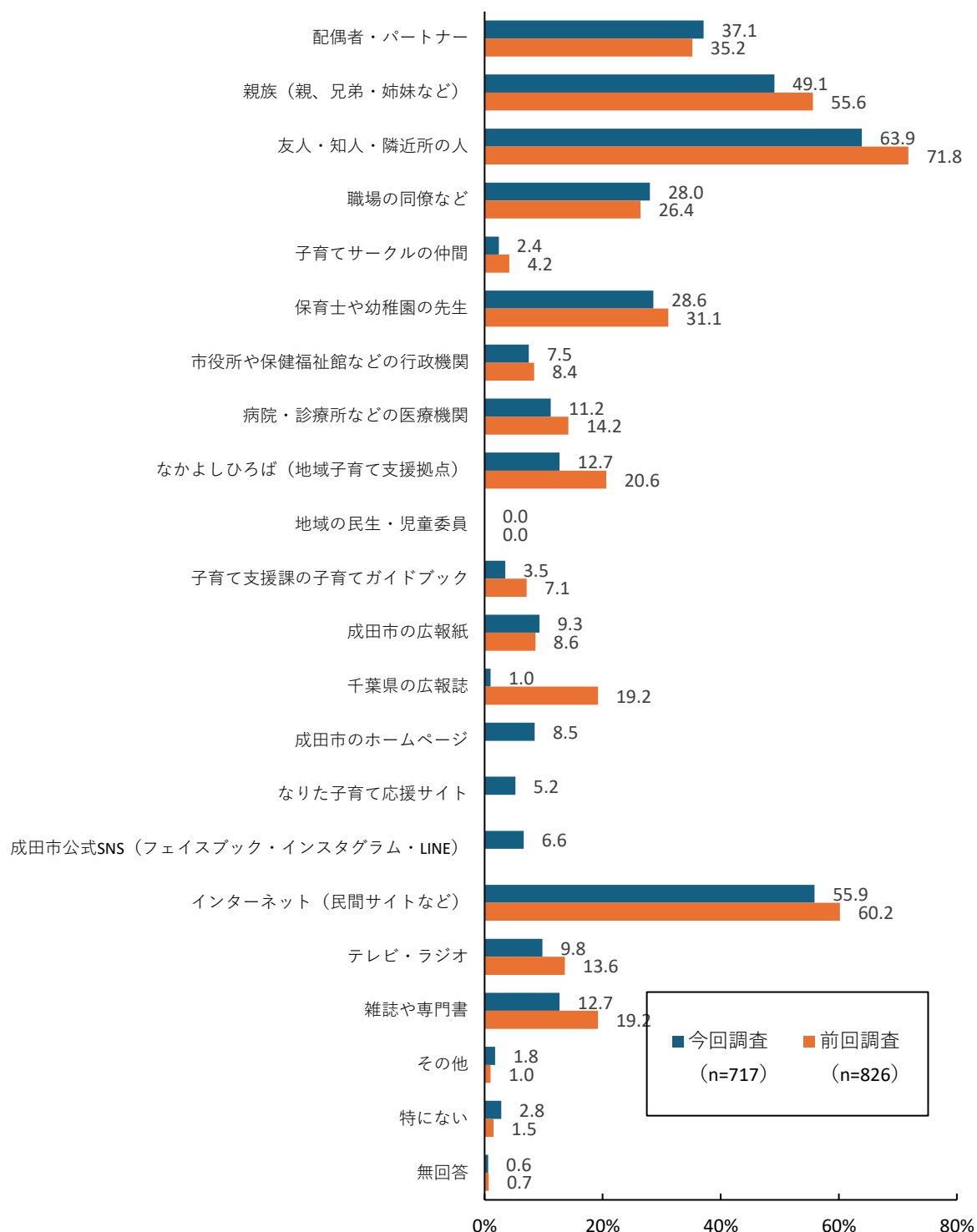
【就学児童の保護者】



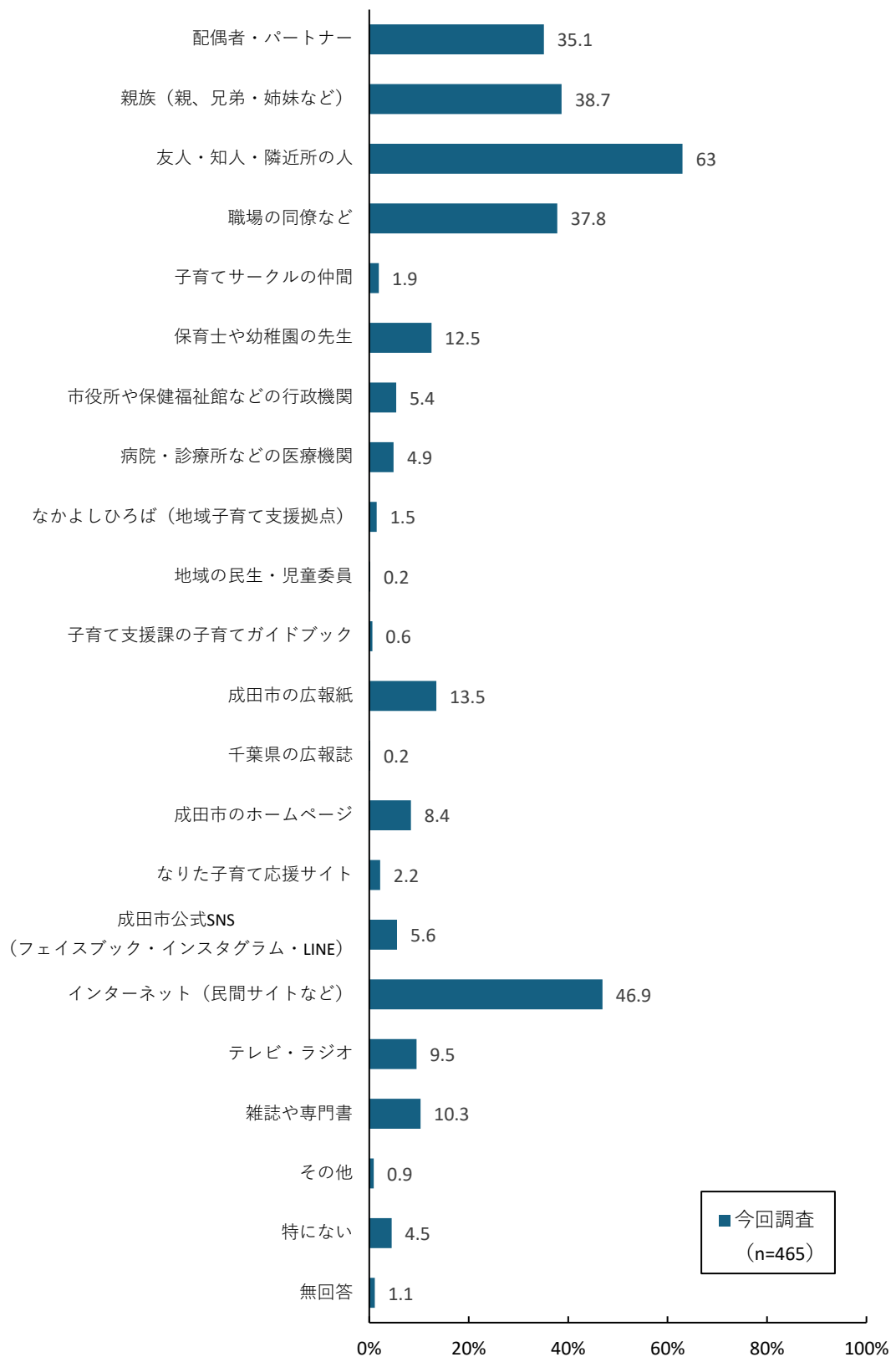
- ② 子育てに関する情報の収集方法について、未就学児童の保護者は、「友人・知人・隣近所の人」が最も多く、次いで「インターネット」となっており、就学児童の保護者は、「配偶者・パートナー」が最も多く、次いで「親族(親・兄弟・姉妹など)」となっている。
【未就学児童/問50・就学児童/問35】

図表 子育てに関する情報の収集方法【複数回答】

【未就学児童の保護者】



【就学児童の保護者】



- ③ 就学児童の保護者が「こどもの権利」について知っている割合は、「よく知っている」が12.3%、「少し知っている」が41.3%、「聞いたことはある」が34%、「知らない」が12%となっている。【就学児童/問25】

図表 こどもの権利の認知度(就学児童の保護者)【単数回答】

